

旧別子銅山の産業遺産が眠る別子山 この別子山 山越の銅の道 「銅山越」

新居浜

紅葉した別子山 念願の銅山越・銅の道を歩きました

2012.10.27.

山根

端出場

東平

立川

旧別子銅山城

銅山越

別子

旧別子山村

© 2012 Cnes / Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe  
Image © 2012 GeoEye

Google earth



新居浜

別子山はその稜線から山腹深く銅鉱床がつながる銅の山  
稜線の両側山腹からは坑道が掘りぬかれた別子銅山  
また、稜線 銅山峰を越える「銅山越」はかつての銅の道

この「銅の道」の道筋にはかつての別子銅山の産業遺産が  
奥深い緑の中に埋没し、「東洋のマツピチュ」とも呼ばれる

端出場

東平

立川

旧別子銅山城

銅山越

別子

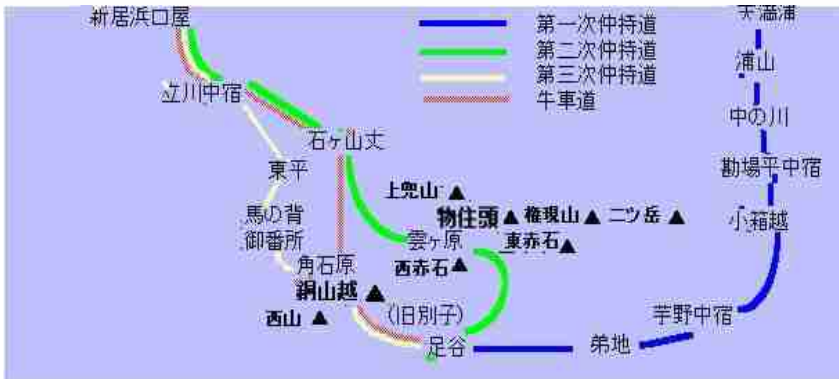
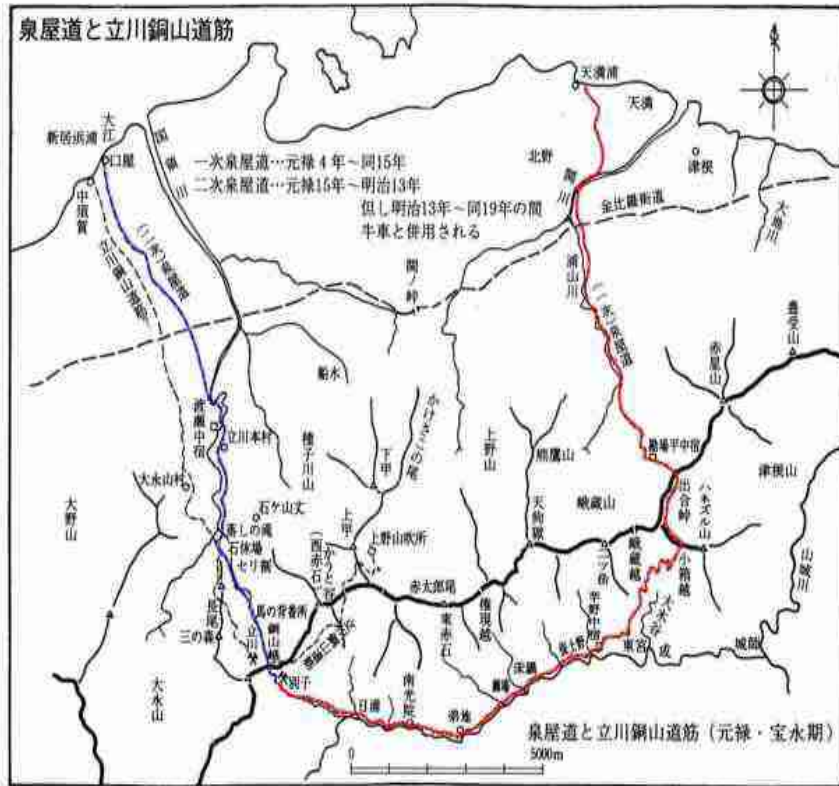
旧別子山村



# 別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/bessi/Qbessi/00data/miti/miti.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm> より



- 上部鉄道 角石原-石ヶ山丈 明治44年(1911) 10月7日 廃止
- 下部鉄道 惣開-一端出場 昭和52年(1977) 2月1日 廃止

## (泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山域を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱峠越で運ばれていた。

## (新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川鉱山の経営不振により 立川鉱山が住友の請負鉱山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた

**二次泉屋道** 元禄15年(1702)~寛延2年(1749)  
足谷・東延-西赤石南側-雲ヶ原-西赤石と上兜山の間  
-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

**三次仲持道** 寛延2(1749)年~明治13年(1880)  
足谷-銅山越-角石原-馬の背-御番所-東平-端出場  
-立川中宿=新居浜口屋

## (牛車道)

**牛車道** 明治13年(1880)~明治26年(1893)  
足谷山-銅山越-角石原-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

## (第一通洞→上部鉄道~索道~下部鉄道)

◆ 明治26年(1893)~明治38年(1905)  
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開精錬所  
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道

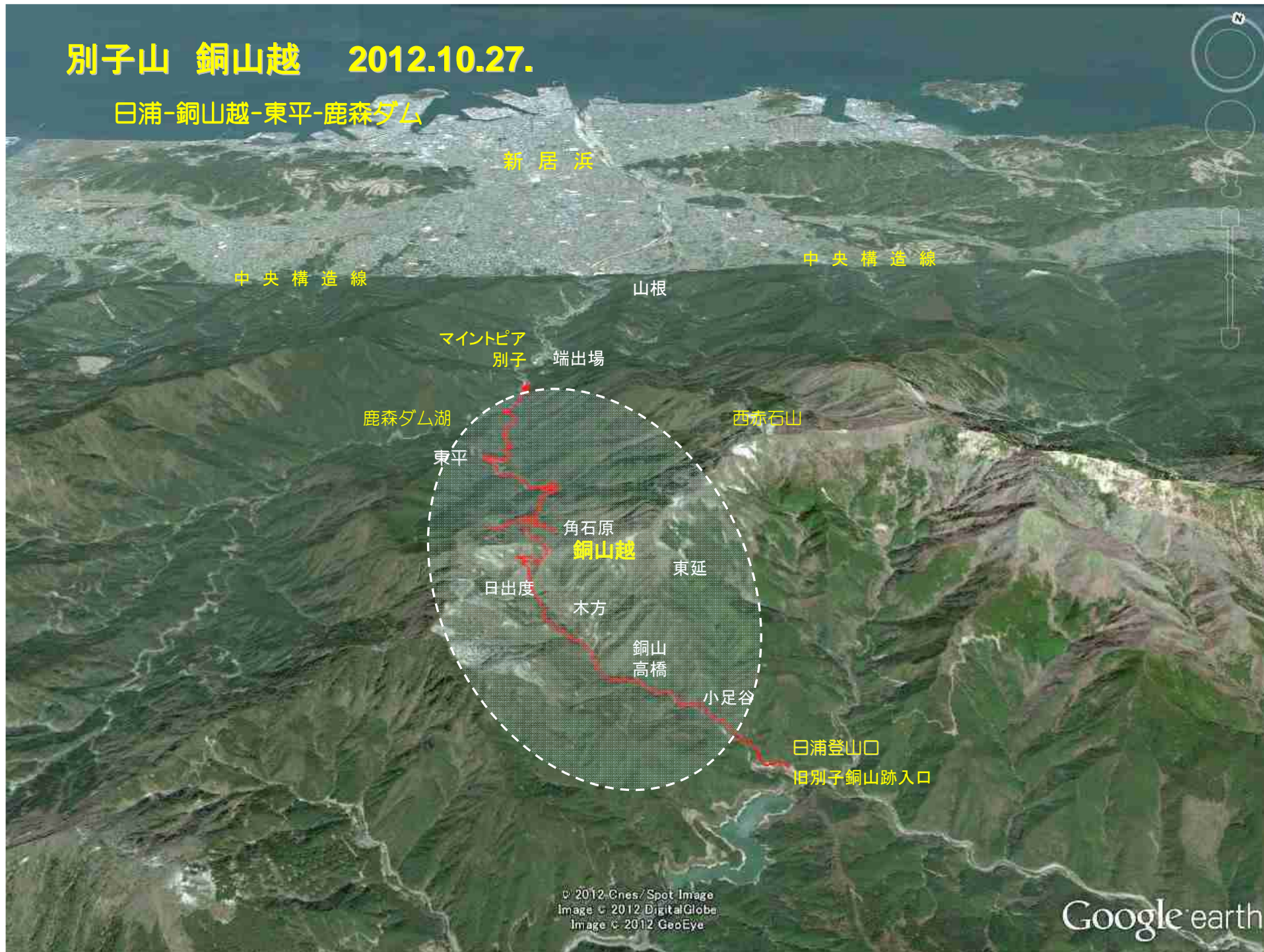
◆ 明治38年(1905)~明治44年(1911)  
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開=四坂島  
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が日浦-東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)



# 別子山 銅山越 2012.10.27.

日浦-銅山越-東平-鹿森ダム



© 2012 Cnes/Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe  
Image © 2012 GeoEye

Google earth





別子銅山跡の鳥瞰図

中央のハッチング部分が銅山峰の稜線で右側が南で旧別子山村、左側が北で新居浜側である。

四角で囲んだ地名は江戸・明治初期の銅山遺跡である。



# 山深い別子山の山中に かつて こんな諸施設・集落が幾つも存在した



小足谷接待館と傭人社宅



目出度町鉦山街



目出度町 別子病院



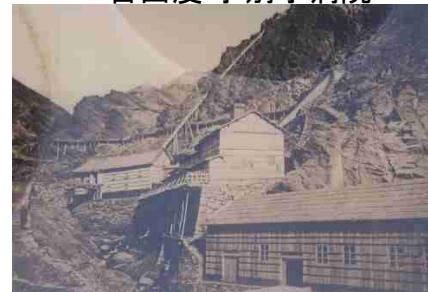
銅山越



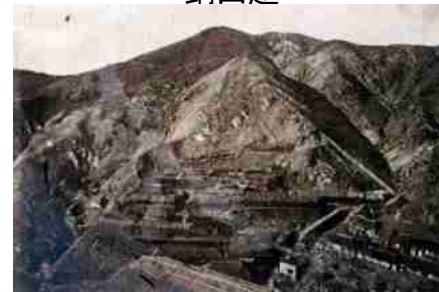
小足谷集落



劇場(土木課)



高橋・高橋製錬所



勘場と見花谷



小足谷集落



角石原停車場



木方吹所



上部鉄道



東平社宅全景



東平の街中心部



端出場

別子山に眠る旧別子銅山  
集落&諸施設



2012/10/28  
**別子山 銅山越 2012.10.27.**

日浦-銅山越-東平-鹿森ダム

【南の別子山村側より】

新居浜

山根

端出場

東平・銅山越 鹿森ダム山口

東平歴史資料館  
東平駐車場

第三通洞

新太平坑口

ヒュッテ

笹ヶ峰分岐

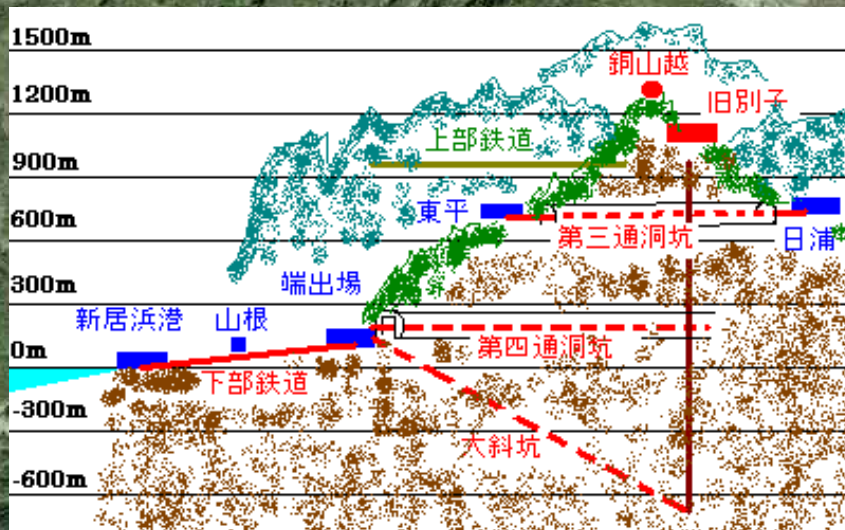
銅山越

大山積神社跡

裏門

ダイヤモンド水

日浦銅山越登山口



2 Cres/Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe

Google earth



遠登志登山口(鹿森ダム)

# 銅の道 別子銅山越

四国中央市

新居浜側

東平

新居浜市

別子銅山産業遺産  
が転々と残る

旧別子銅山跡

銅山越

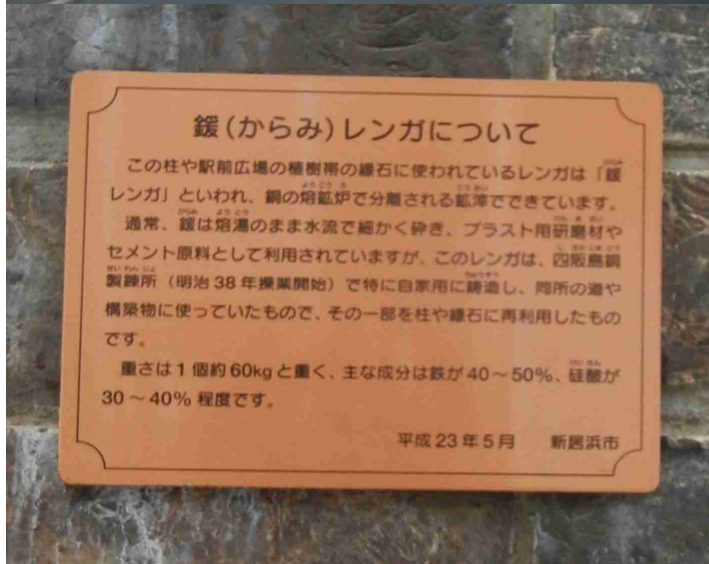
旧別子山村

日浦登山口





スタートは 10月27日朝  
きれいになっていて  
ビックリした新居浜駅



新居浜駅 2012.10.27. ビックリするほどきれいになった新居浜駅

銅のカラミ煉瓦がモニュメントとして支柱に使われている。 松山7時過ぎの特急で新居浜8時半着 日曜日の早朝



南側の旧別子山村側日浦登山口から 足谷川沿いの渓谷沿いに広がる旧別子を登りつめ、銅山越してから北側の角石原へ下り、東平を経て、別子川鹿森ダムへ下る

別子山に入るための交通は車がないと極めて悪い。タクシーで日浦に行く予定でしたが、ラッキーにも 9時に新居浜駅から別子山村へ行く地域バスに乗せてもらえました。

それも 乗客は私だけ 本当にラッキー。

新居浜 別子銅山記念館のある山根から国領川沿いの別子の渓谷を溯り、端出場・別子マイントピアを経て、鹿森ダムから大永山トンネルで銅山越西側の稜線を水面にくぐり、南側の日浦登山口へ紅葉した別子山の渓谷を眺めながらの約40分ほどのドライブ。

以前一度銅山越登山口までながら交通事情が悪く、銅山越をあきらめたことがあるが、今回は大丈夫。帰りは 東平でタクシーに電話連絡して無終えに来てもらう約束も取れている。



新居浜市街地行き				別子山行き			
停留所	1便	2便	臨時1便	停留所	2便	4便	臨時1便
別子橋	6:45	13:05	14:30	江波病院前	8:40	17:40	18:00
自由乗降(津山荘、ふるさと館、ゆらぎの森他)	↓	↓	↓	前田	8:42	17:42	18:02
				イーガホテル前	8:44	17:44	18:04
				イオン新居浜	8:47	17:47	18:07
山根グラウンド	7:53	14:43	15:08	菅原前	9:03	18:03	18:07
山根	7:54	14:44	15:09	東平	9:04	18:04	18:08
大通り	7:55	14:45	15:10	新居浜駅新居浜駅	9:06	18:06	18:10
瑞定寺前	7:56	14:46	15:11	原井	9:07	18:07	18:11
西蓮寺	7:57	14:47	15:12	松本	9:08	18:08	18:12
宮原入口	7:58	14:48	15:13	松原入口	9:09	18:09	18:13
	7:58	14:48	15:13	東城	9:10	18:10	18:14
	7:59	14:49	15:14	曹光地	9:11	18:11	18:15
	8:00	14:50	15:15	西原	9:12	18:12	18:16
	8:01	14:51	15:16	宮原入口	9:13	18:13	18:17
	8:02	14:52	15:17	西蓮寺	9:13	18:13	18:17
	8:03	14:53	15:18	瑞定寺前	9:14	18:14	18:18
	8:05	14:55	15:20	大通り	9:15	18:15	18:19
	8:06	14:56	15:21	山根	9:16	18:16	18:20
	8:07	14:57	15:22	山根グラウンド	9:17	18:17	18:21
	8:08	14:58	15:23	生子橋	9:17	18:17	18:21
	8:09	14:59	15:24	板の幸橋	9:18	18:18	18:22
	8:12	15:02	15:27	白鳥渡	9:19	18:19	18:23
	8:13	15:03	15:28	日浦	9:20	18:20	18:24
	8:14	15:04	15:29	立川橋	9:21	18:21	18:25
元塚	8:15	15:05	15:30	新道	9:22	18:22	18:26
東町	8:16	15:06	15:31	温泉口	9:24	18:24	18:28
登達	8:17	15:07	15:32	端出場	9:24	18:24	18:28
中須賀	8:18	15:08	15:33	マイントピア別子	9:25	18:25	18:29
西原	8:19	15:09	15:34	自由乗降(日浦、中七番他) 日浦登山口	↓	↓	↓
工業高校前	8:19	15:09	15:34	別子山支所前	10:10	19:10	19:20
イオン新居浜	8:23	15:13	15:38	自由乗降(津山荘、ふるさと館、ゆらぎの森他)	↓	↓	↓
イーガホテル前	8:25	15:15	15:40				
前田	8:27	15:17	15:42				
江波病院前	8:30	15:20	15:45				
				別子橋	10:55	19:55	19:55

※時刻表の空白部分はデマンド区間です。





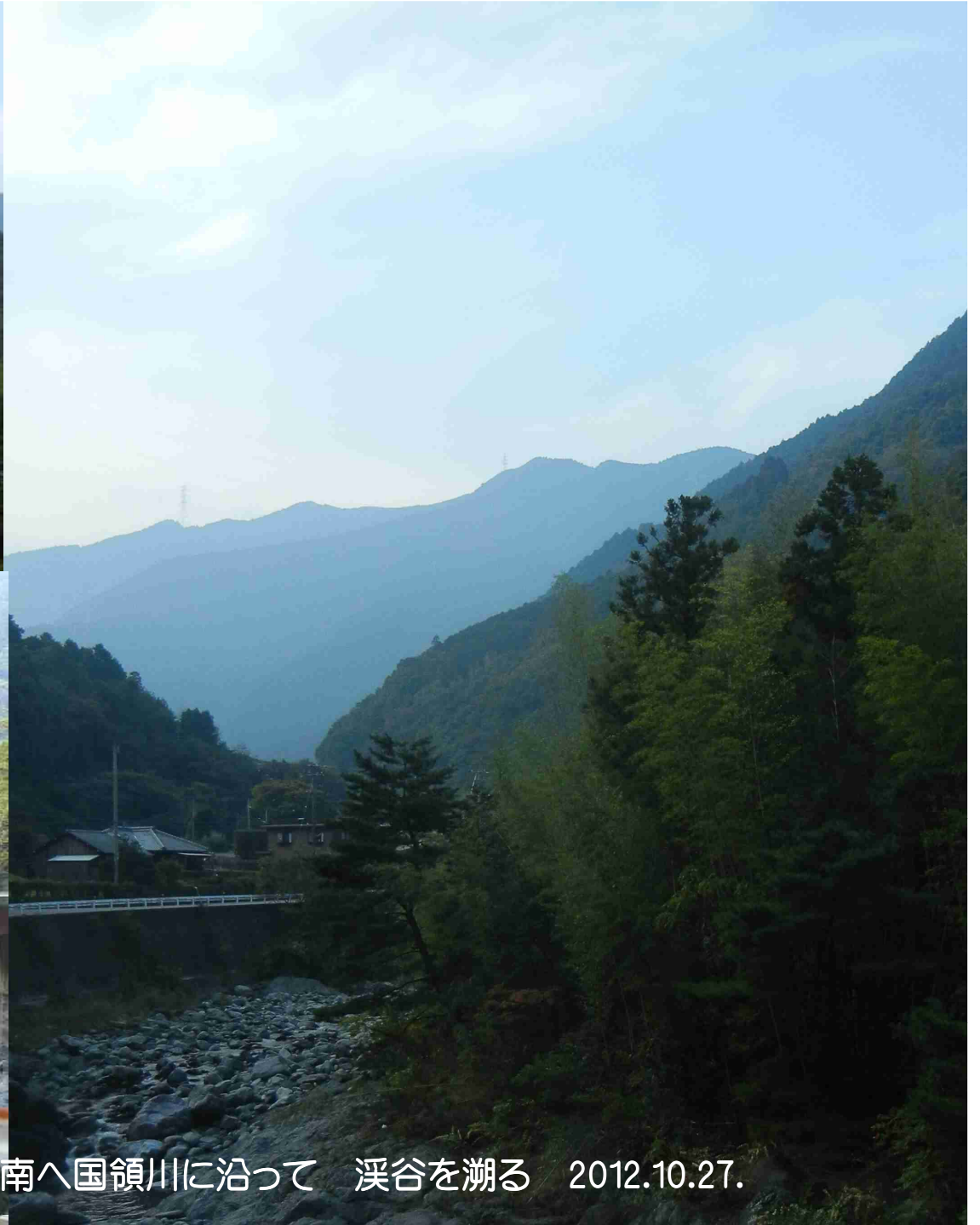
駅から北へ走って 国道山根の交差点を東に曲がると 別子山をバックに 岡の上に山根精錬所の煉瓦の煙突が見える。この麓を右手から国領川が流れくだる別子ラインの溪谷の入口で、別子銅山の鉱石は下部鉄道を使って ここまでおろされた。今ここには 別子銅山の銅山記念館がある





山根から南へ いよいよ 別子ライン溪谷の奥へ入って行く





別子山の山並に向かって 南へ国領川に沿って 溪谷を溯る 2012.10.27.





旧別子銅山端出場地区 マイントピア別子 2012.10.27.





鹿森ダム堰堤まえのループ橋  
この堰堤のすぐ上が東平を経て銅山越へ至る北側の登山口 2012.10.27.





溪谷深く高度を増すにつれ、紅葉が進む別子の山々が目に飛び込む









別子山の背後 四国の脊梁 石鎚山脈の荒々しい岩稜の山並も見えてくる 2012.10.27.





紅葉が進む山腹をジグザグに登って 別子山の西端を大永山トンネルで南へ潜り抜ける 2012.10.27.





大永山トンネルを抜けると 銅山川が東へ溪谷を流れ下る別子山村  
笹ヶ峰から石鎚へと続く四国脊梁の山並を眺めながら東へ 2012.10.27.









別子山村側 銅山川沿いの紅葉が素晴らしい 2012.10.27.





銅山川 別子ダム湖が見えてくるともうまもなく日浦の登山口 2012.10.27.







日浦登山口 2012.10.27.  
ここから銅山越の道が始まる



日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口

2012.10.27.





日浦登山口 銅山越・銅の道の案内板



## 旧別子登山口

旧別子とは過去に繁栄した別子銅山の跡と言った意味である。この高さは海拔約800m、銅山峰は約1,300m、高度差約500m、道程にして約3.2kmの間に元禄時代から大正5年まで225年にわたる間の無数の産業遺跡が眠っている。それらの遺跡をたどれば、今日の住友グループ、そして工都新居浜発展の原点は、ここ旧別子にあるということが想像できる。

この辺りは吉野川の支流銅山川の源流域で、各所の河川の水は西側にある別子ダム(有効貯水量542万トン)に貯水してトンネルで新居浜側へ送り、発電や農・工業用水として利用されている。別子ダムは新居浜市の貴重な水瓶である。



日浦登山口 銅山越・銅の道の案内板より



# 銅の道・別子山 銅山越 ルート図

日浦-銅山越-東平-鹿森ダム



© 2012 Cnes/Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe  
Image © 2012 GeoEye

Google earth



2012/10/28  
**銅の道・別子山 銅山越** 2012.10.27.

日浦-銅山越-東平-鹿森ダム

【南の別子山村側より】

新居浜

山根

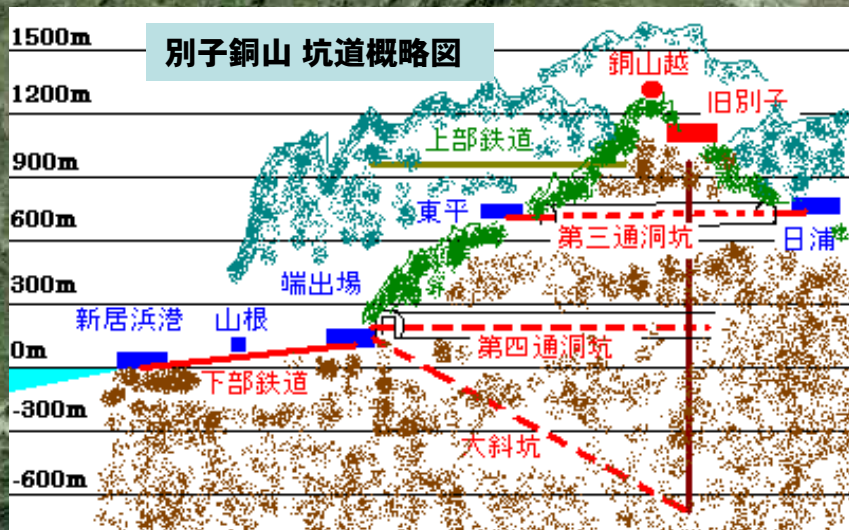
端出場

東平歴史資料館  
 東平駐車場  
 第三通洞  
 ヒュッテ  
 笹ヶ峰分岐  
 銅山越  
 大山積神社跡

裏門

ダイヤモンド水

日浦銅山越登山口



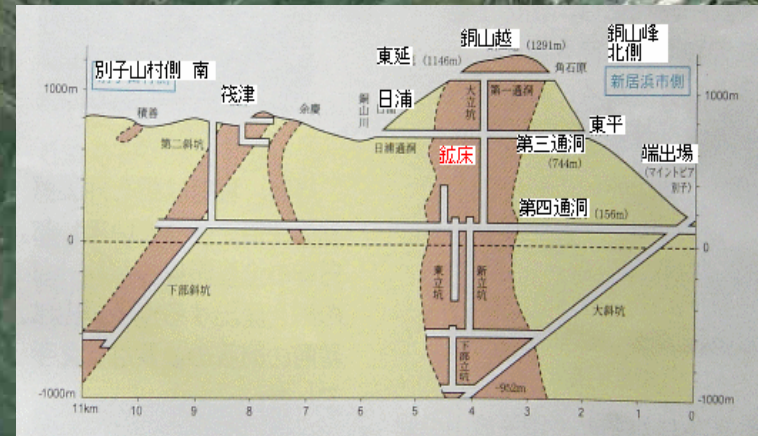
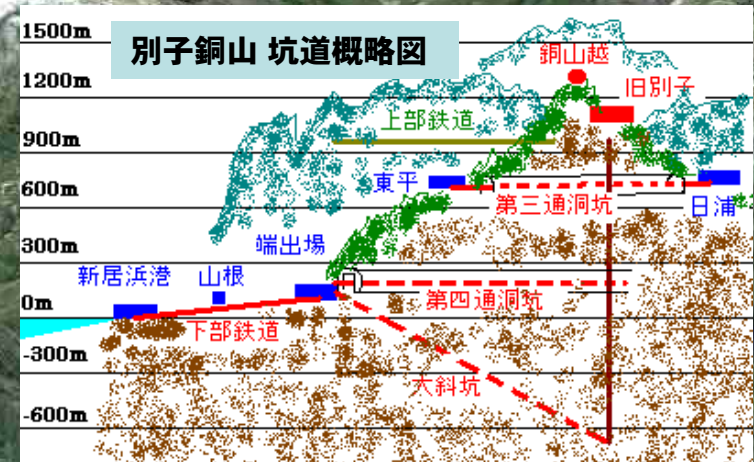
2 Cres/Spot Image  
 Image © 2012 DigitalGlobe

Google earth



# 銅の道・別子山 銅山越 2012.11.27.

日浦-銅山越-東平-鹿森ダム  
【北の新居浜側より】



© 2012 Cries/Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe

Google earth

山根



# 別子山村側 旧別子銅山 産業遺産案内図



東平の街と  
インクライン



銅山越



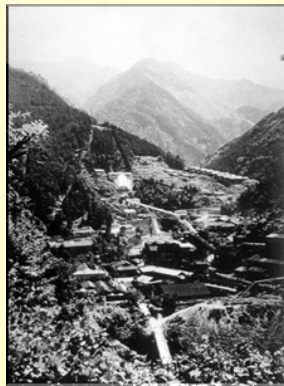
勘場と見花谷



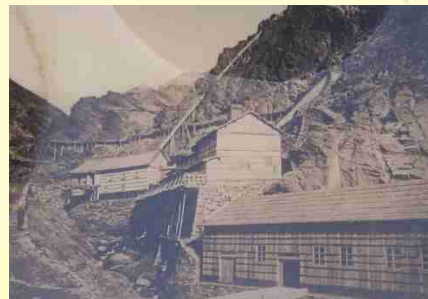
歓喜坑



目出度町鉦山街



端出場



高橋・高橋製錬所

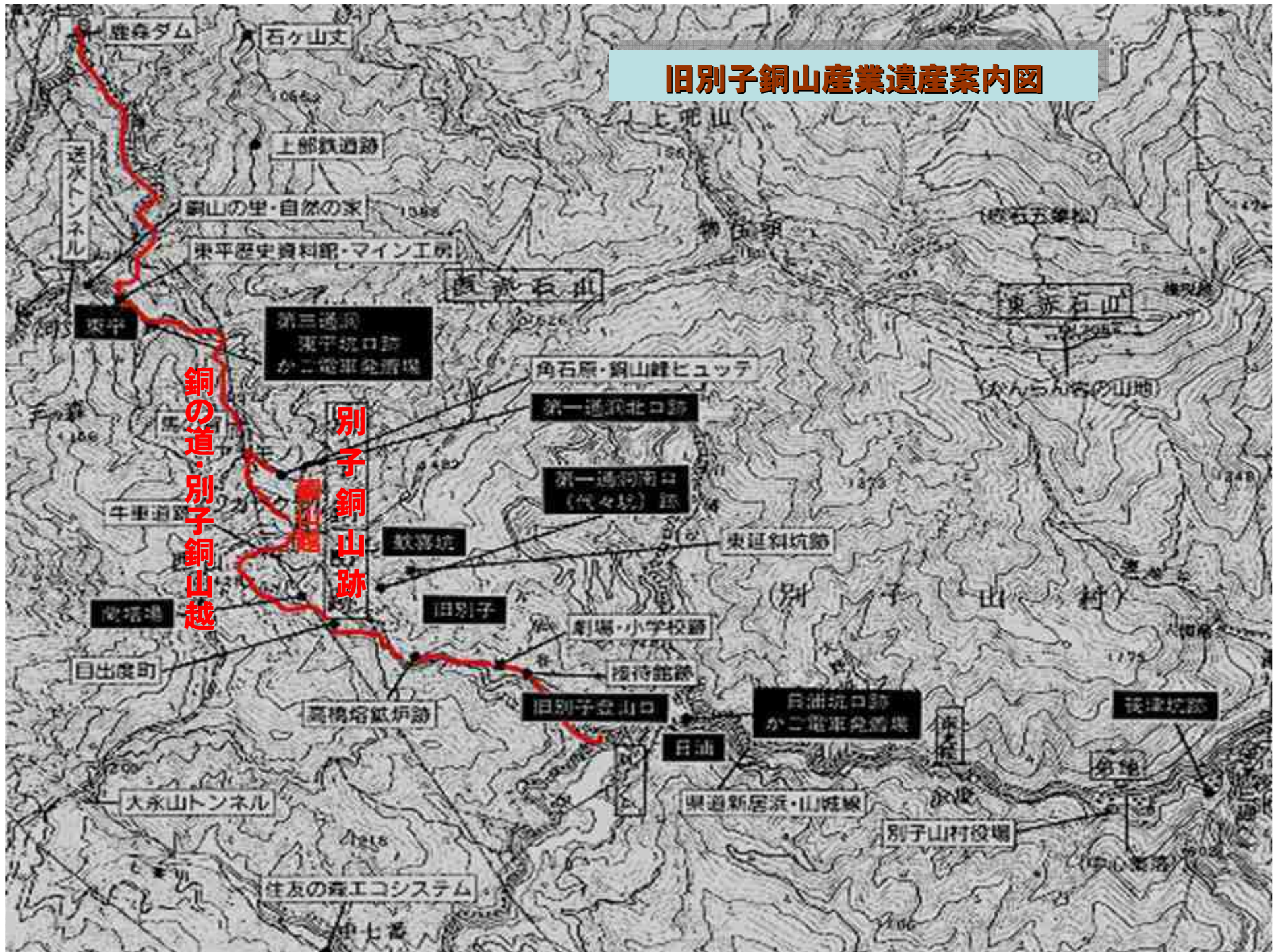


小足谷集落





# 旧別子銅山産業遺産案内図







小足谷接待館と傭人社宅



目出度町 鉾山街



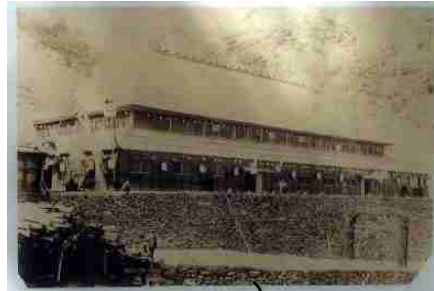
目出度町 別子病院



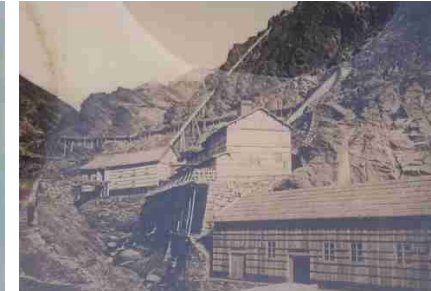
銅山越



小足谷集落



劇場(土木課)



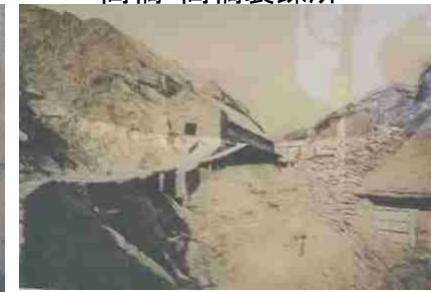
高橋・高橋製錬所



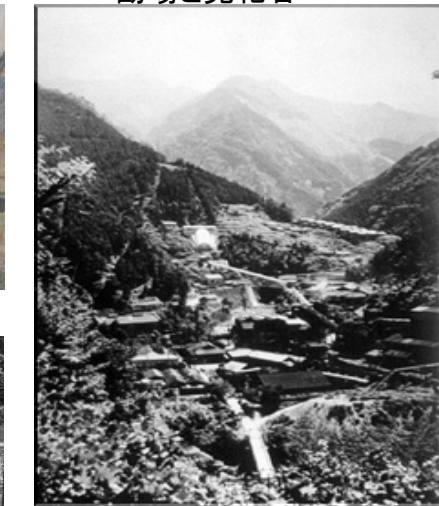
勘場と見花谷



角石原停車場



木方吹所



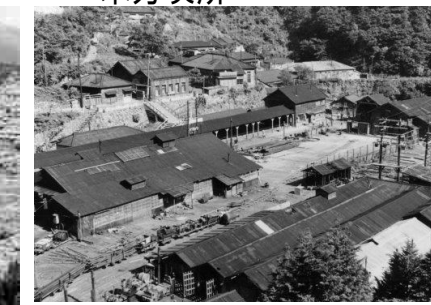
端出場



上部鉄道



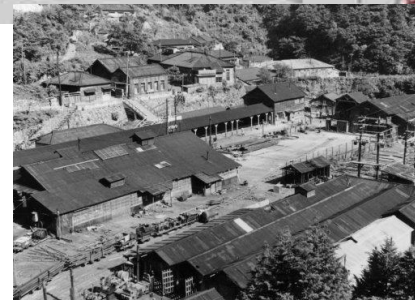
東平社宅全景



東平の街中心部

**別子山に眠る旧別子  
銅山集落&諸施設**





**東平地区 旧別子銅山 集落&諸施設 概略図**





日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口

2012.10.27.



別子山村 日浦登山口 2012.10.27.

旧別子銅山の産業遺産を訪ねつつ、  
別子山を新居浜側に越えてゆく  
銅山越・銅の道walkのスタートです



日浦銅山越登山口・旧別子銅山入口

2012.10.27.





旧別子銅山案内図  
(別子山)



自然を大切に

新居浜市 平成18年

Small informational signpost on the left side of the main signpost.







銅の道・銅山越 旧別子銅山跡 日浦登山口入口 2012.10.27.



## 旧別子登山口

旧別子とは過去に繁栄した別子銅山の跡と言った意味である。この高さは海拔約800m、銅山峰は約1,300m、高度差約500m、道程にして約3.2kmの間に元禄時代から大正5年まで225年にわたる間の無数の産業遺跡が眠っている。それらの遺跡をたどれば、今日の住友グループ、そして工都新居浜発展の原点は、ここ旧別子にあるということが想像できる。

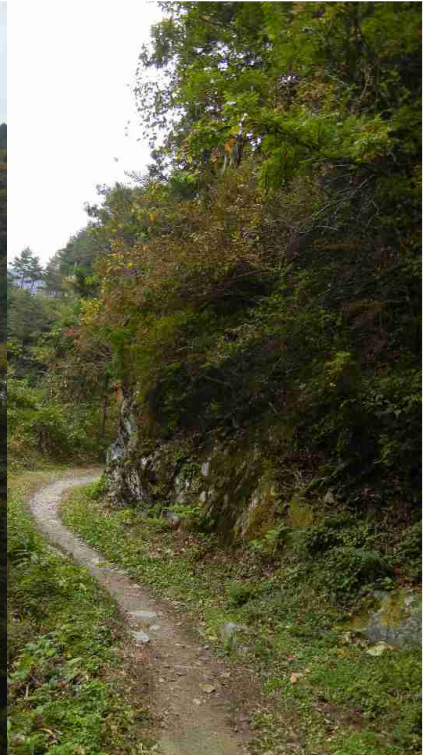
この辺りは吉野川の支流銅山川の源流域で、各所の河川の水は西側にある別子ダム(有効貯水量542万トン)に貯水してトンネルで新居浜側へ送り、発電や農・工業用水として利用されている。別子ダムは新居浜市の貴重な水脈である。



## 登り口にあった別子ダムと旧別子銅山登り口の案内板

また、登り口で出会った土地の人は 昔 銅山が華やかな頃には 日浦からは通洞の中を走る電車があり、銅山越せず、この電車で東平によく出たもので、別子山村は今よりもっと便利だったと。





銅の道 銅山越・旧別子銅山跡 登山道 白浦入口周辺 2012.10.27.









銅山越 別子銅山跡 円通寺跡周辺 2012.10.27.  
登山道では 旧別子銅山の遺構が残る場所 それぞれに遺構案内板が整備されている





銅山越

別子銅山跡

円通寺跡周辺

2012.10.27.





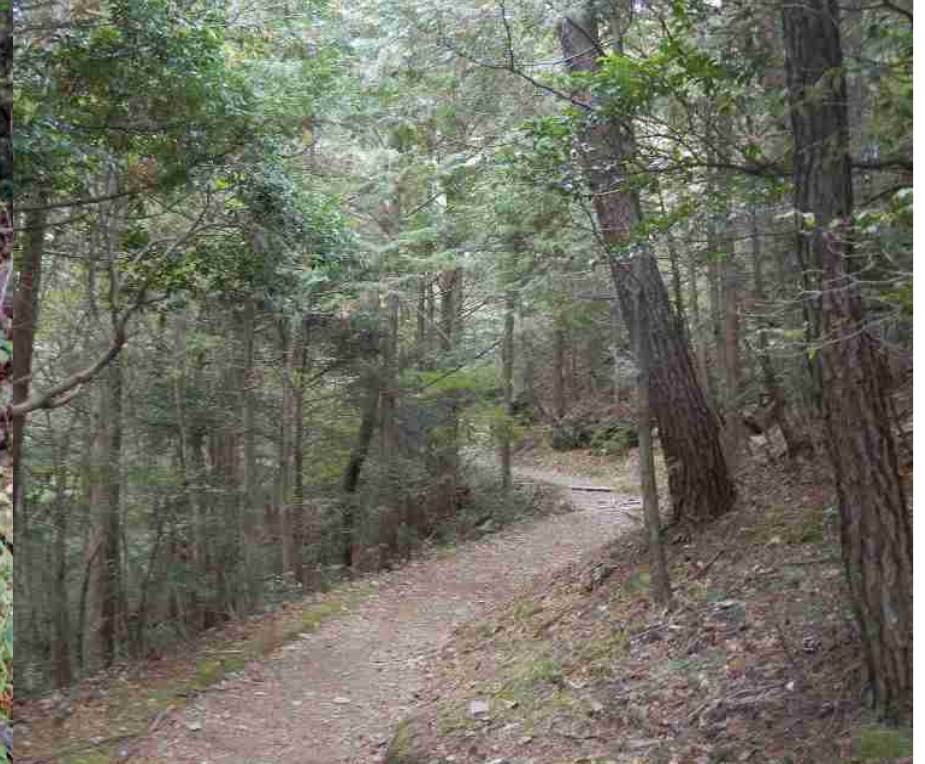
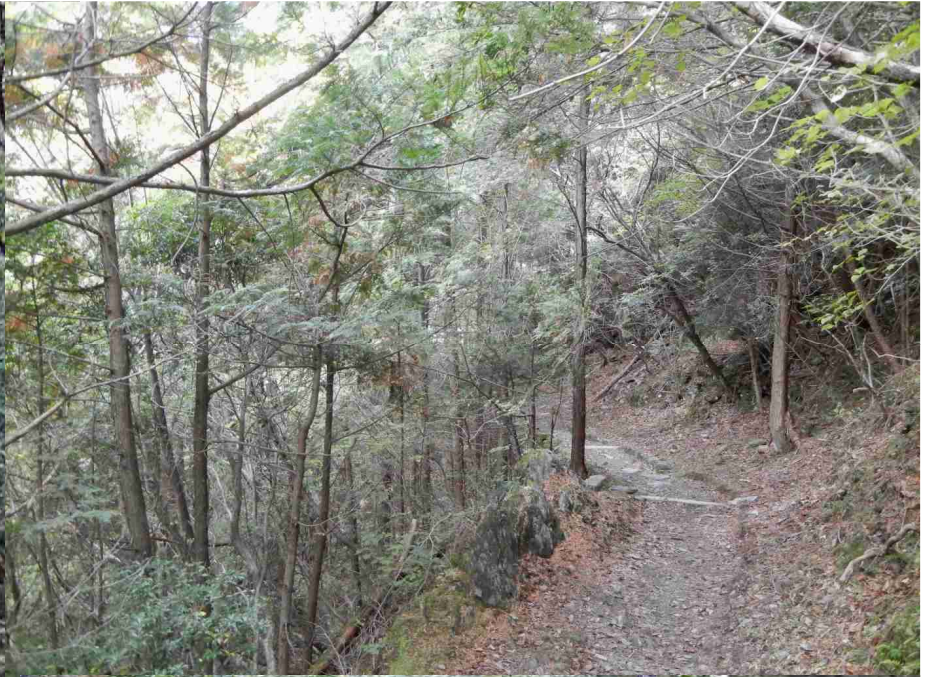
銅山越

別子銅山跡

円通寺跡周辺

2012.10.27.

















小足谷集落跡と味噌・醤油醸造所跡周辺





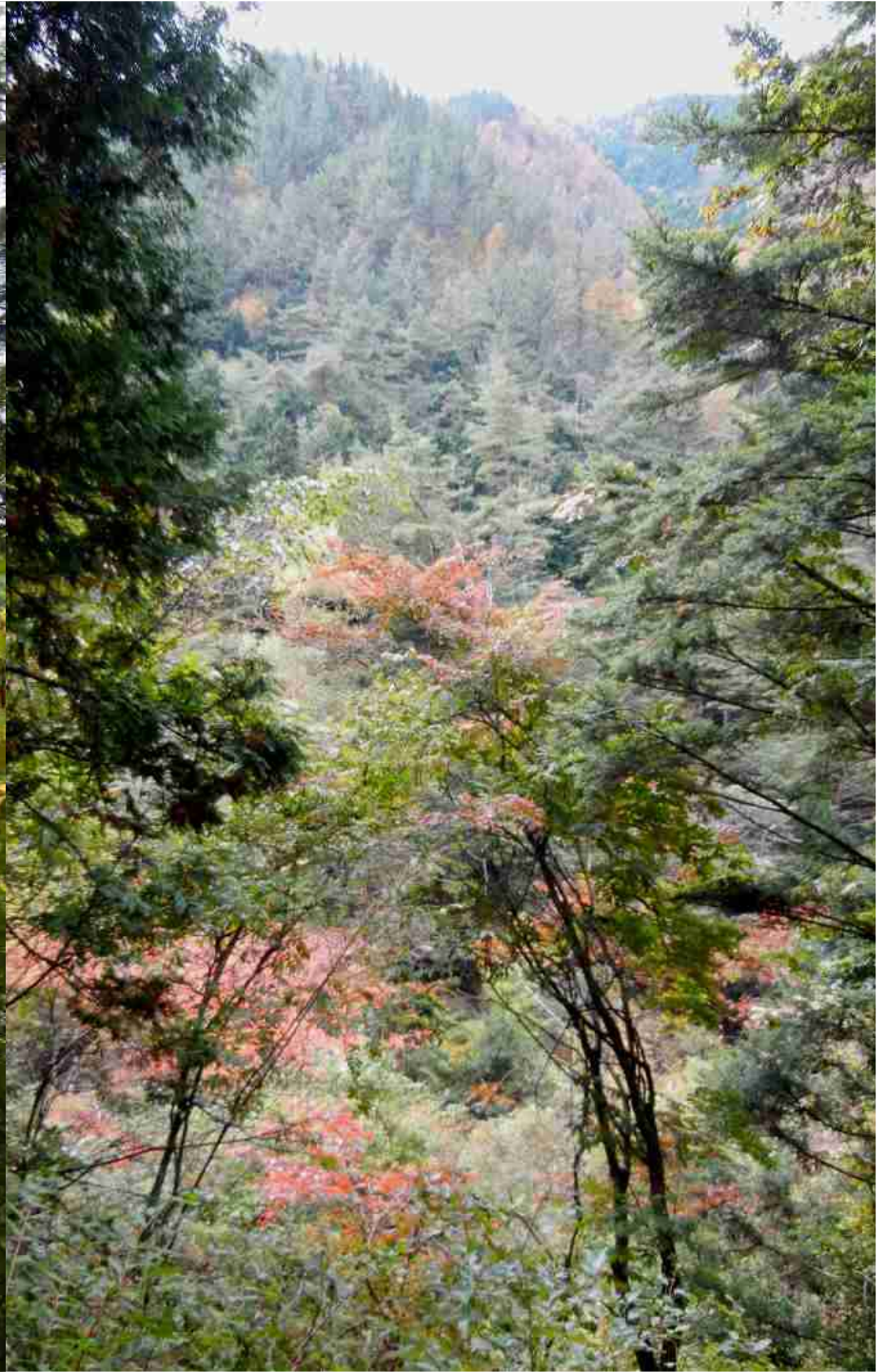
接待館跡周辺





接待館跡











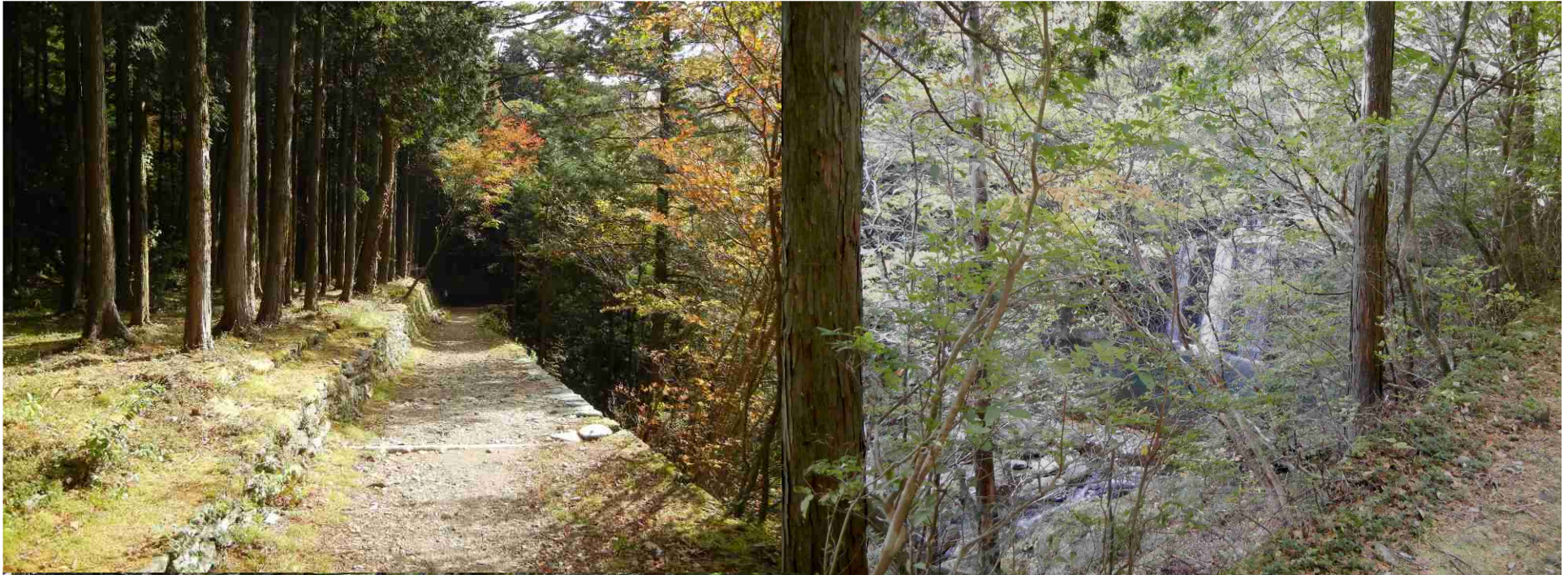






小学校跡









測候所跡





劇場跡と大階段

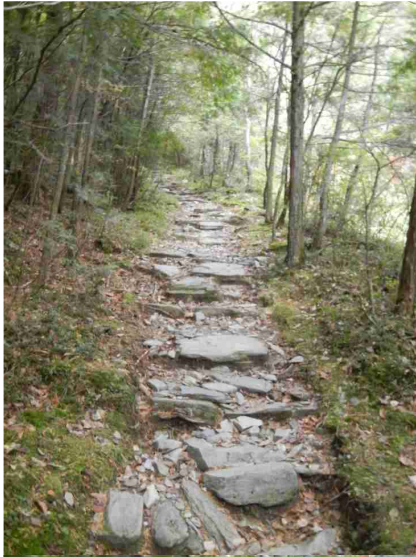
















溶鉱炉があった高橋地区周辺 2012.10.27.



## 高橋製錬所と沈澱工場

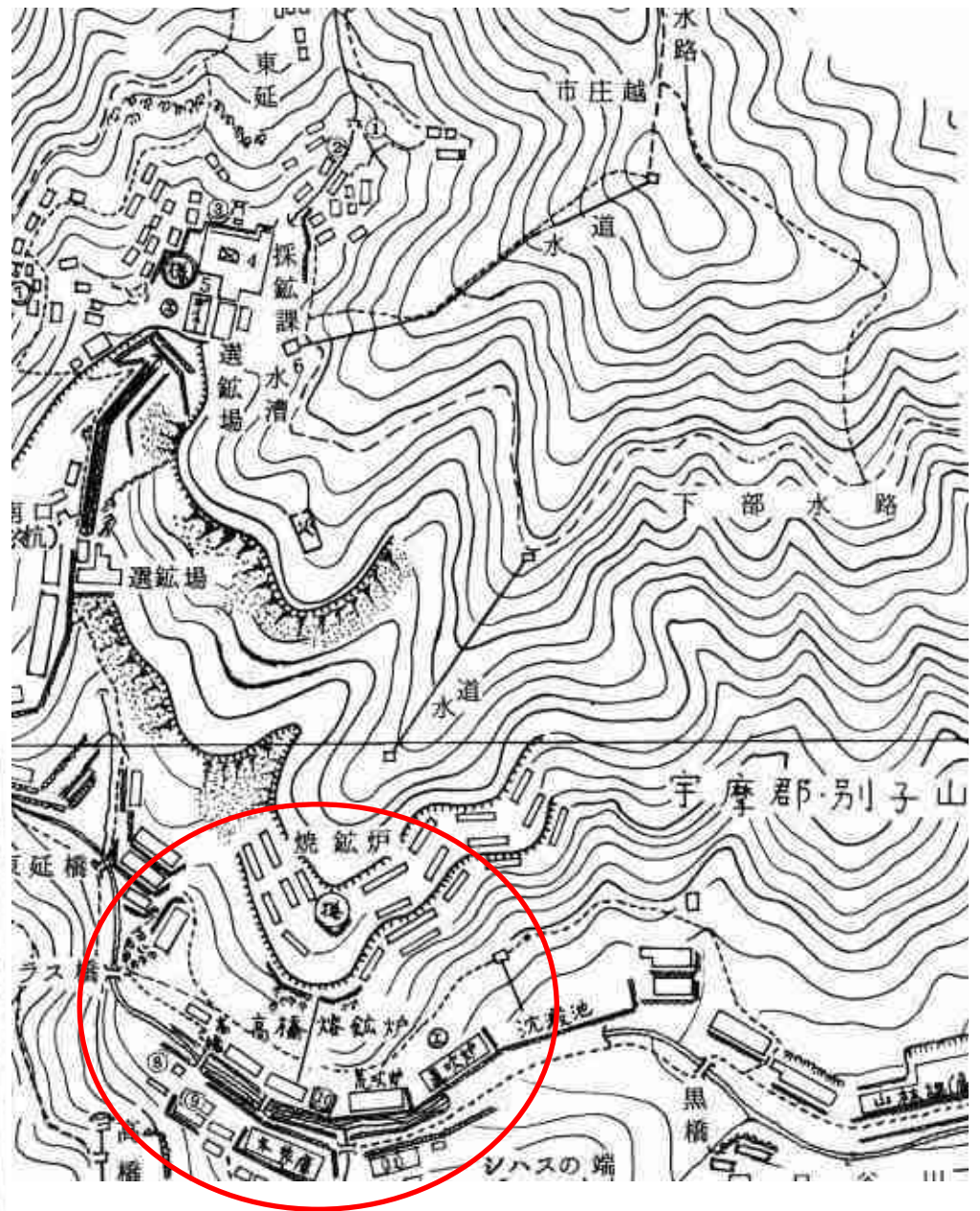
対岸の高い石垣は高橋製錬所跡である。この石垣は更に300m上流まで続いているが、この対岸には明治20年代になって建設された洋式焙鉱炉(左)と沈澱工場(正面)があった。明治28年から政府は環境問題に規制を設け、製錬の際に出る鉱滓を直接川に流さないことにした。そこで製錬所前には暗渠を築いて流水を伏流させ、その上に鉱滓を捨てていたのだ。一時前の谷は鉱滓堆積広場になっていた。それが、明治32年(1899)の風水害で堆積広場は流され、暗渠も大半が潰れて元の谷川に戻った。ここに残る暗渠は当時の様子をかすかに伝えている。

正面には沈澱工場とって、銅の品質が低い鉱石を砕いて粉末にし、水を使って処理する湿式取銅所があったが、明治32年の水害以降その設備が小足谷に移ってからは、自出度町の近くにあった住友病院が一時期移転していた。

※鉱滓：鉱石を製錬する際に生ずる不用品







当時の別子銅山 高橋製錬所周辺の様子





銅山越 別子銅山跡 高橋製錬所跡

2012.10.27.







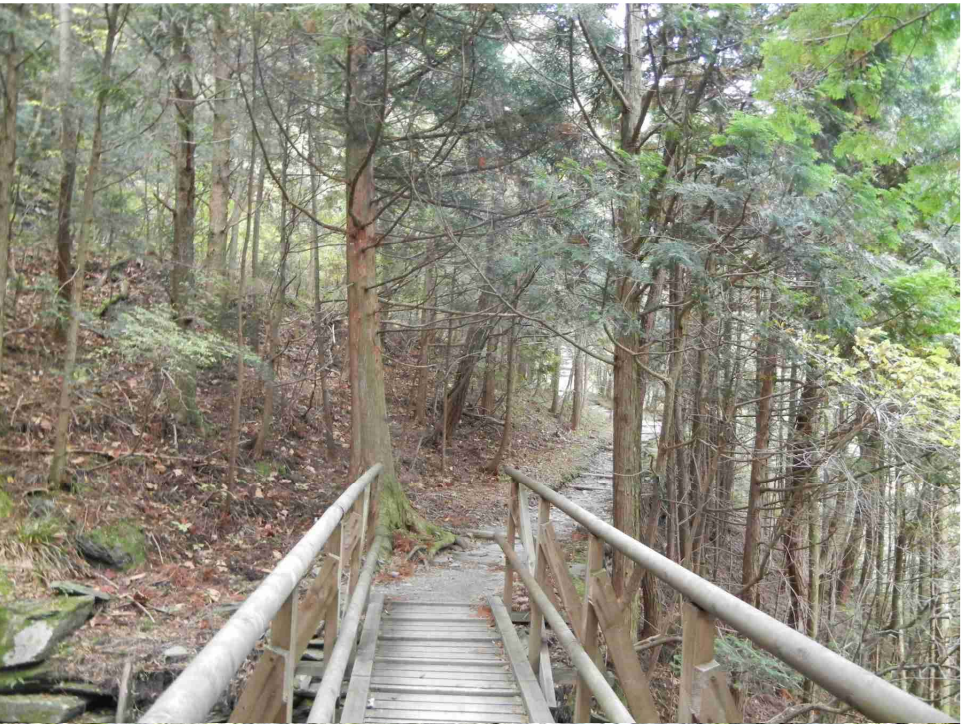
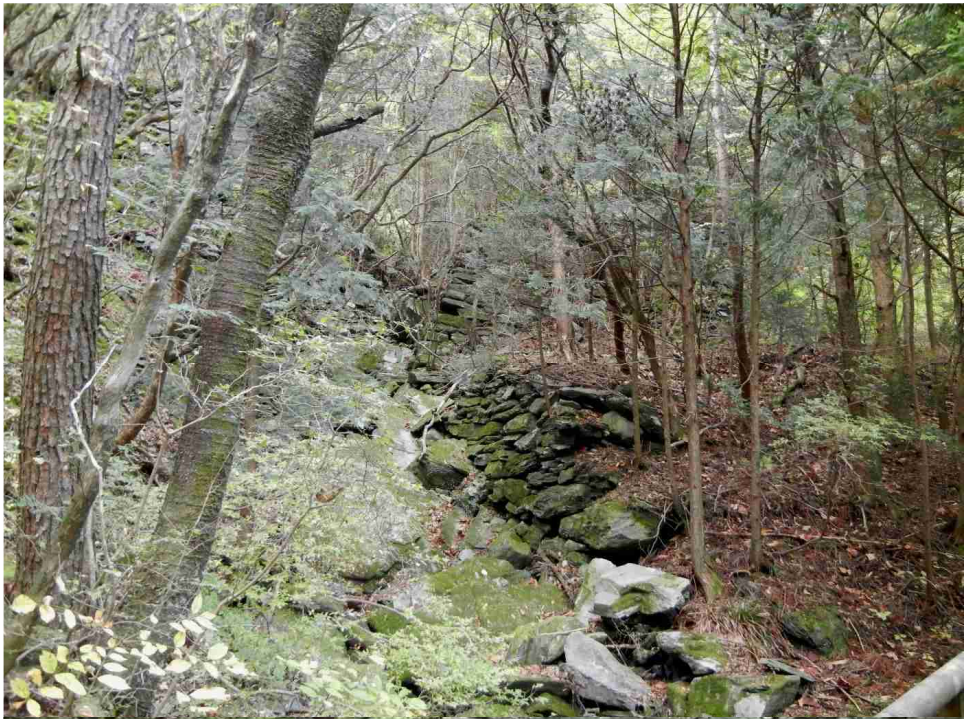


前の谷川に崩れ落ちた高橋溶鉱炉 暗渠跡

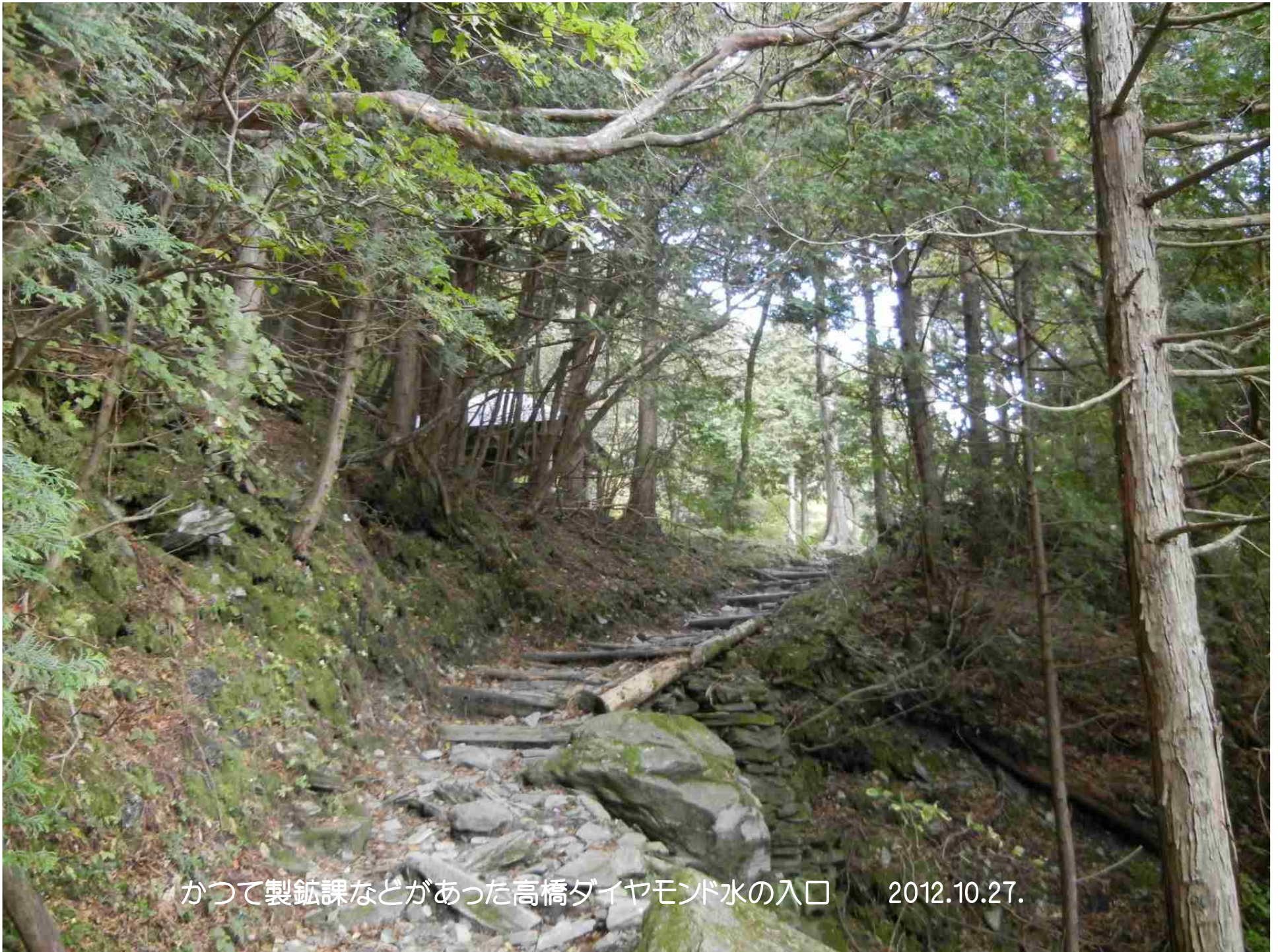












かつて製鋳課などがあつた高橋ダイヤモンド水の入口 2012.10.27.

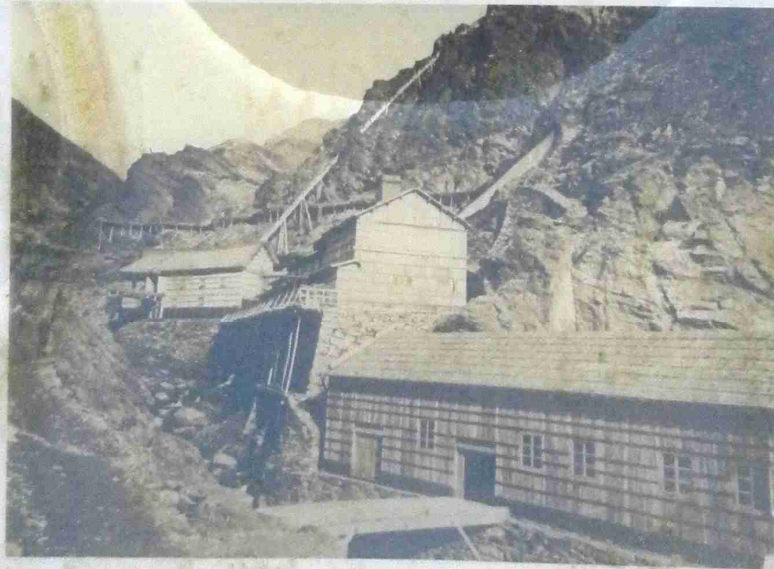


たかばし

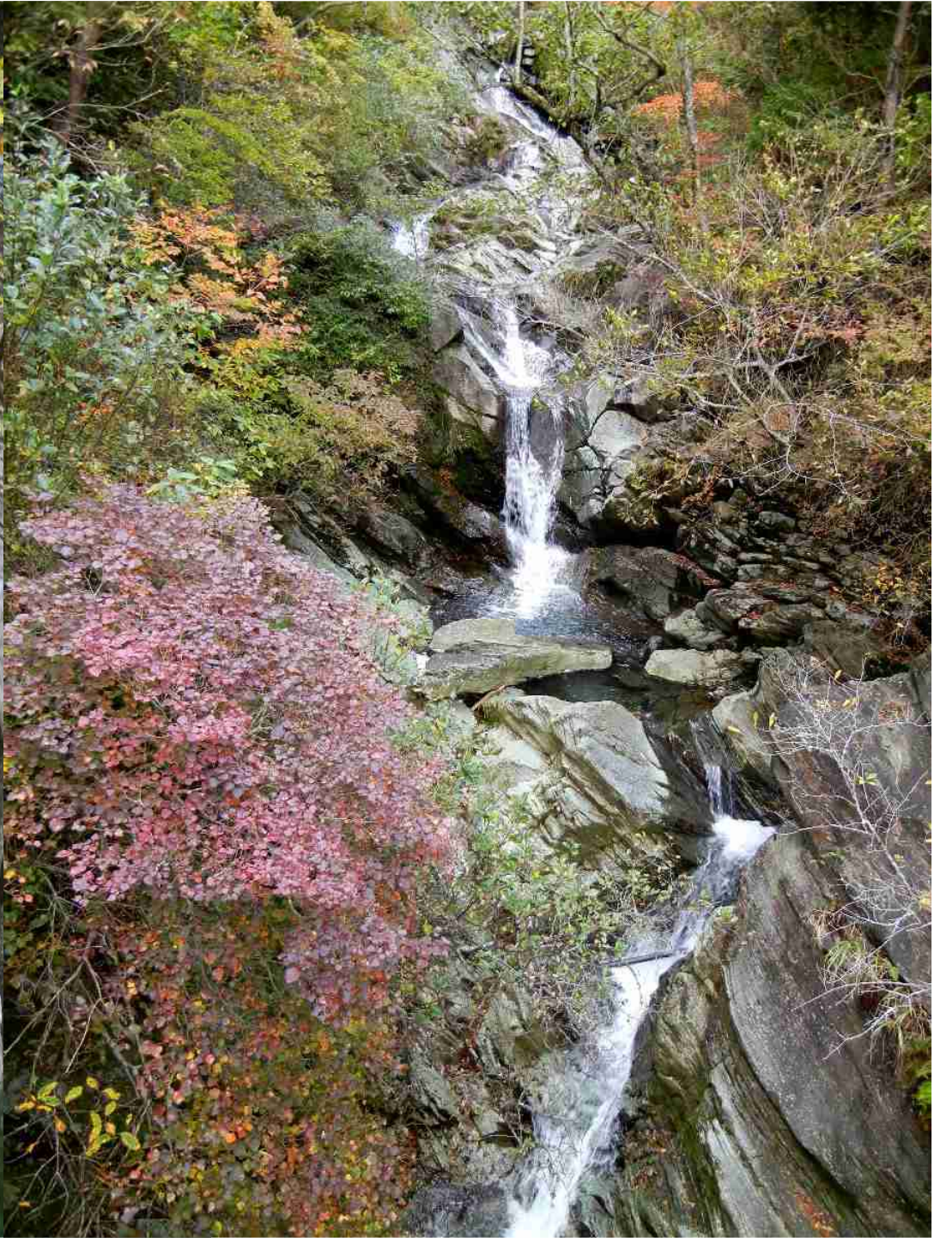
## 高橋熔鋳炉とダイヤモンド水

古くはこの辺りの地名はタカバシであったが、明治12年(1879)頃この対岸に洋式の熔鋳炉が建設されてからはヨウコウロと呼ばれるようになった。ところが戦後(昭和20年代)、別子鋳床の他にもう一層ある金鍋鋳床かんなべというのを探し当てるためにボーリング探査を始め、ここでも昭和26年に掘削を行った。予定深度まであと僅かの82mほどの所で水脈に当たり多量の水が噴出し、ジャミングという事故が起きてロッドの先端部分がネジ切れ、掘削不能となった。ダイヤモンドを散りばめた先端部が今も孔底に残っているので、誰言うともなくダイヤモンド水と呼ばれるようになった。

明治10~20年代にかけて対岸の絶壁の上に焼窯という鋳石を焼く所があって、硫黄を取り去った後の鋳石は箱状の桶でこのレベルまで落とし、熔鋳炉に入れて粗銅あらがねを採っていた。最盛期にはこの辺り一帯に製鋳課の施設や木炭倉庫がひしめいていた。



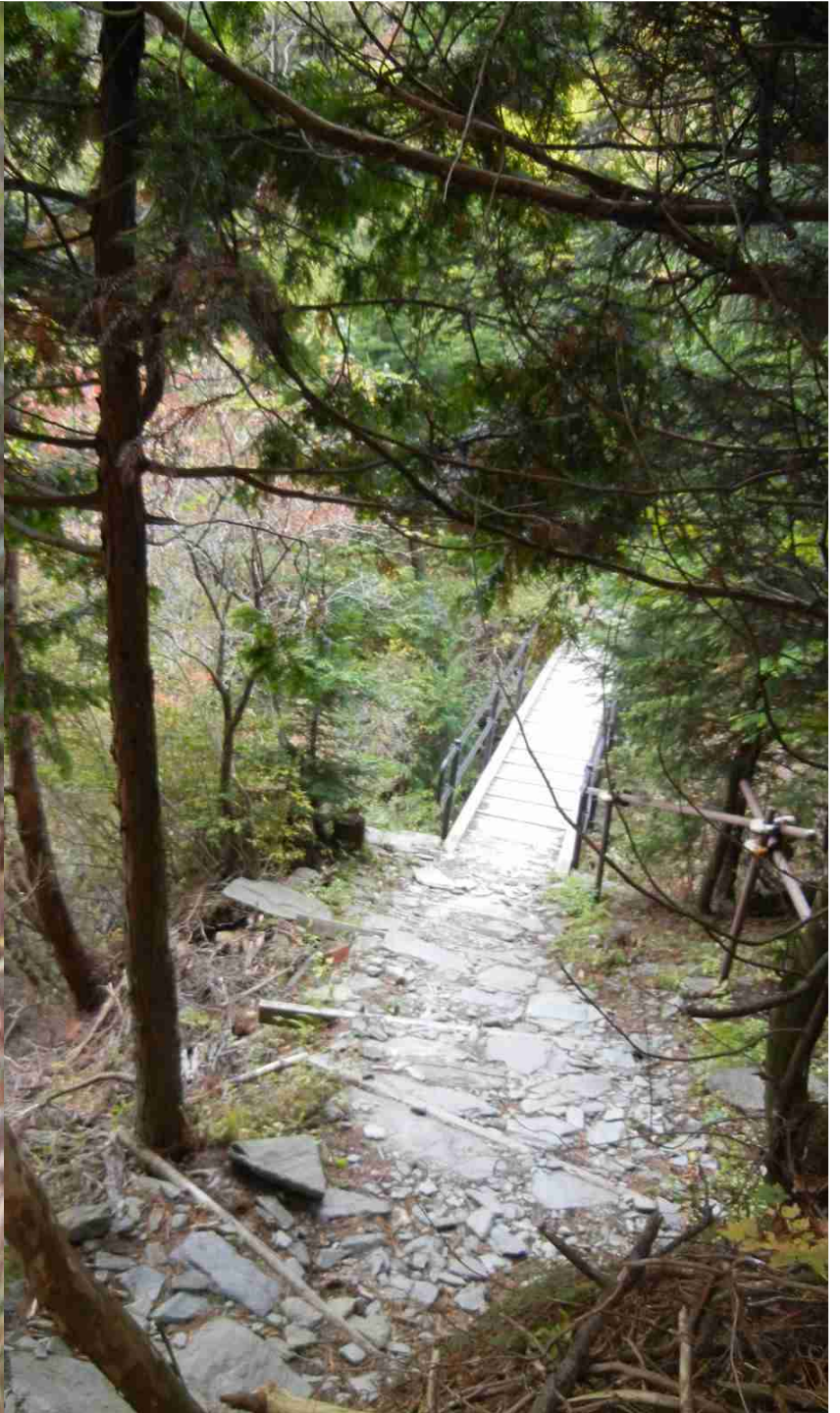
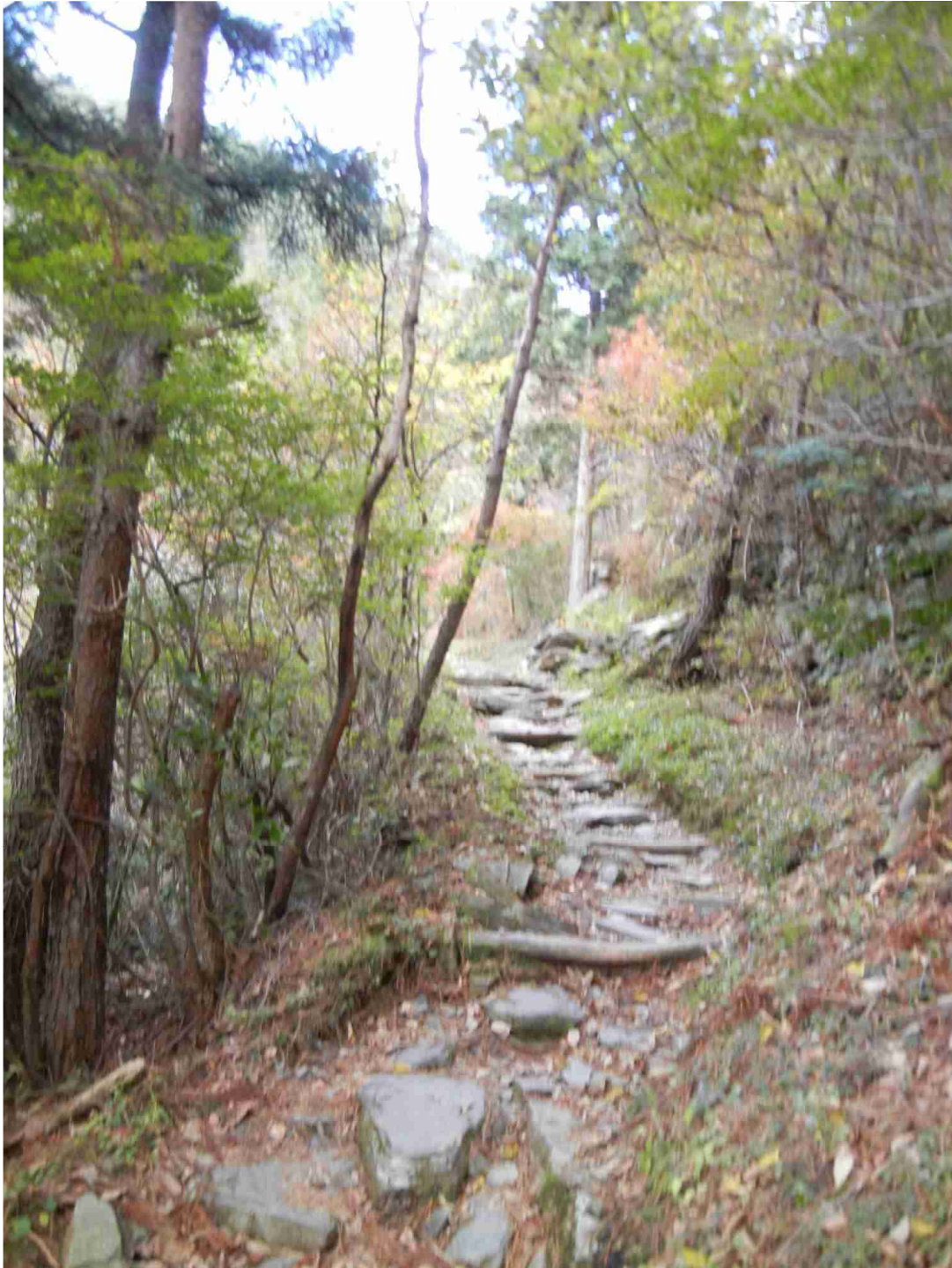








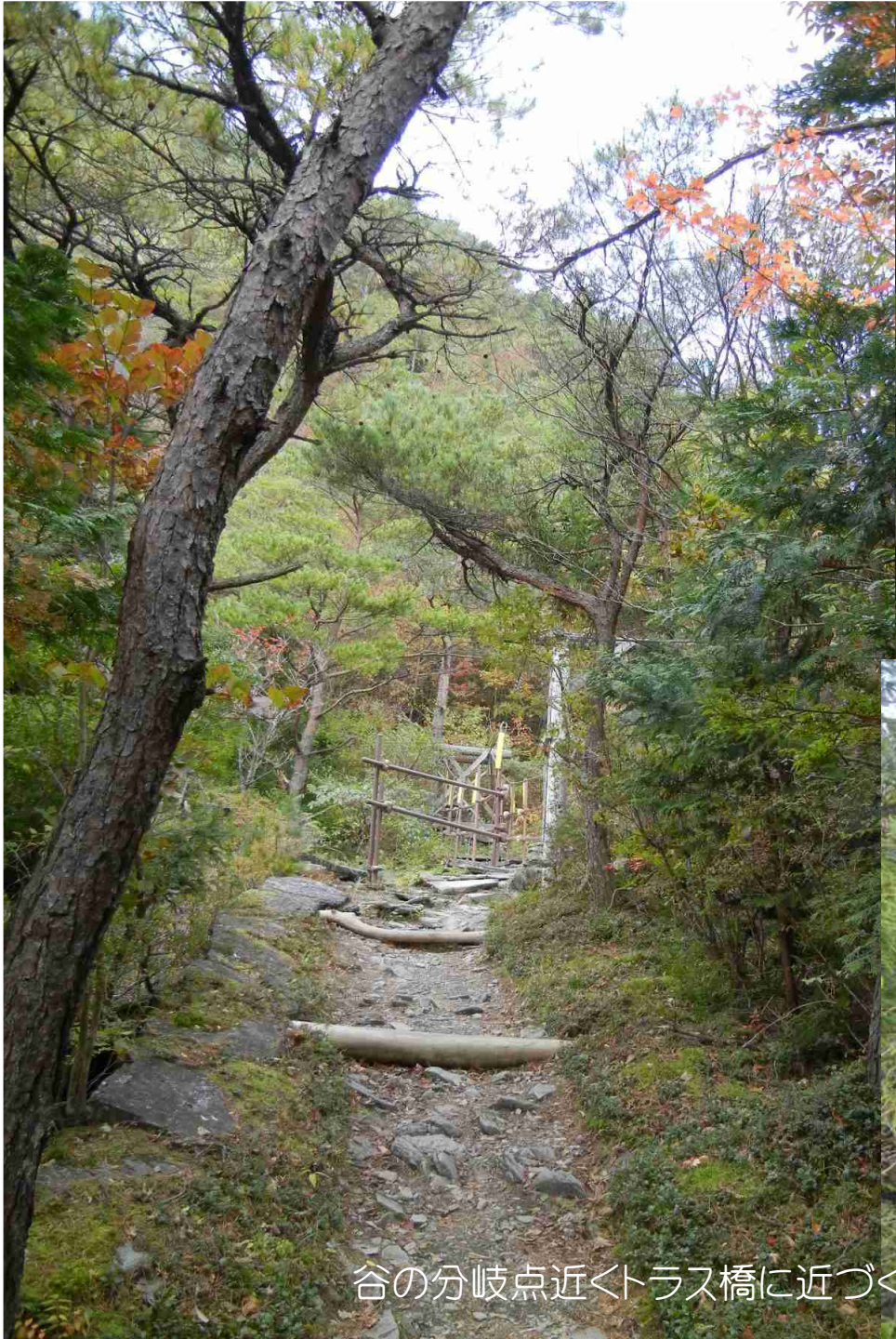












谷の分岐点近くトラス橋に近づくと視界が少し広がる





谷の分岐点近くトラス橋 2012.10.27.





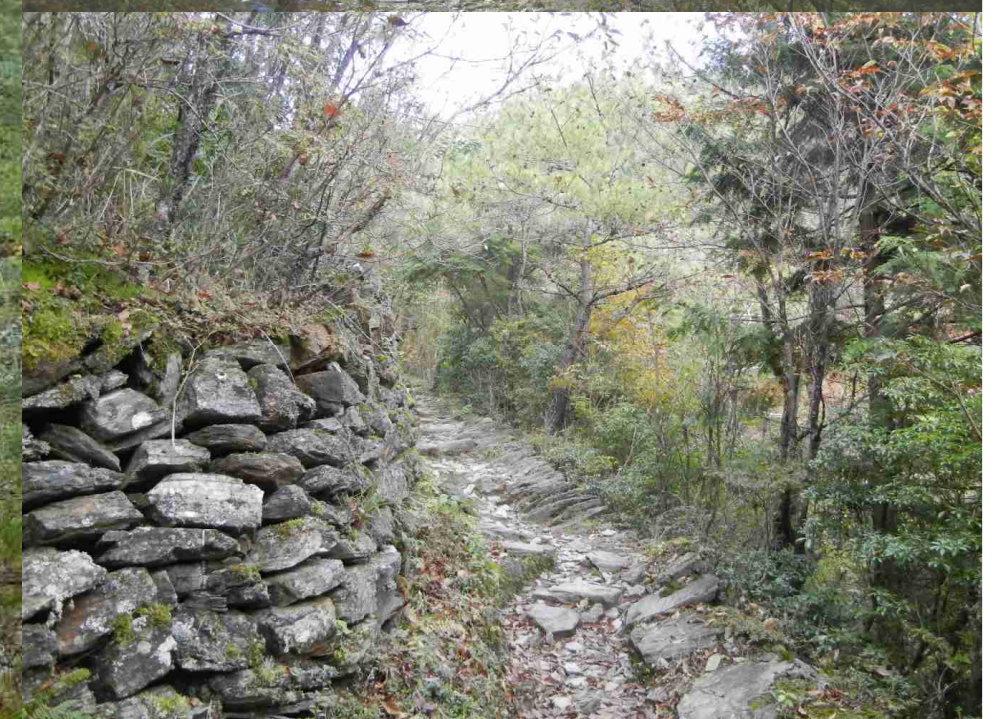
谷の対岸に焼鉱炉群跡 かつて銅山最盛期には山は亜硫酸ガスで丸裸で、諸施設も一望されたと思われるが、今は紅葉した自然の中にうずもれている





銅山越の尾根筋が見えてきた 2012.10.27.









谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く日  
出度町経由の谷筋分岐点 2012.10.27.

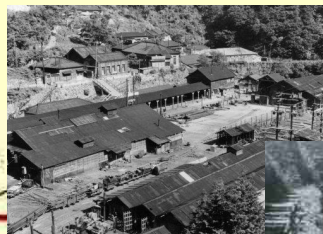




登山口  
ダイヤモンド水経由、日出堂町経由  
40分  
銅山越

寛政谷木方経由  
50分  
銅山越





東平の街と  
インクライン



銅山越



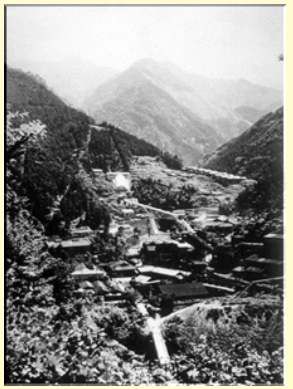
勘場と見花谷



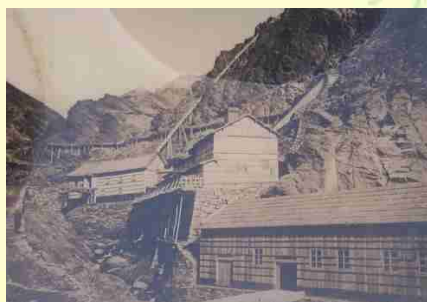
歓喜坑



目出度町鉦山街



端出場



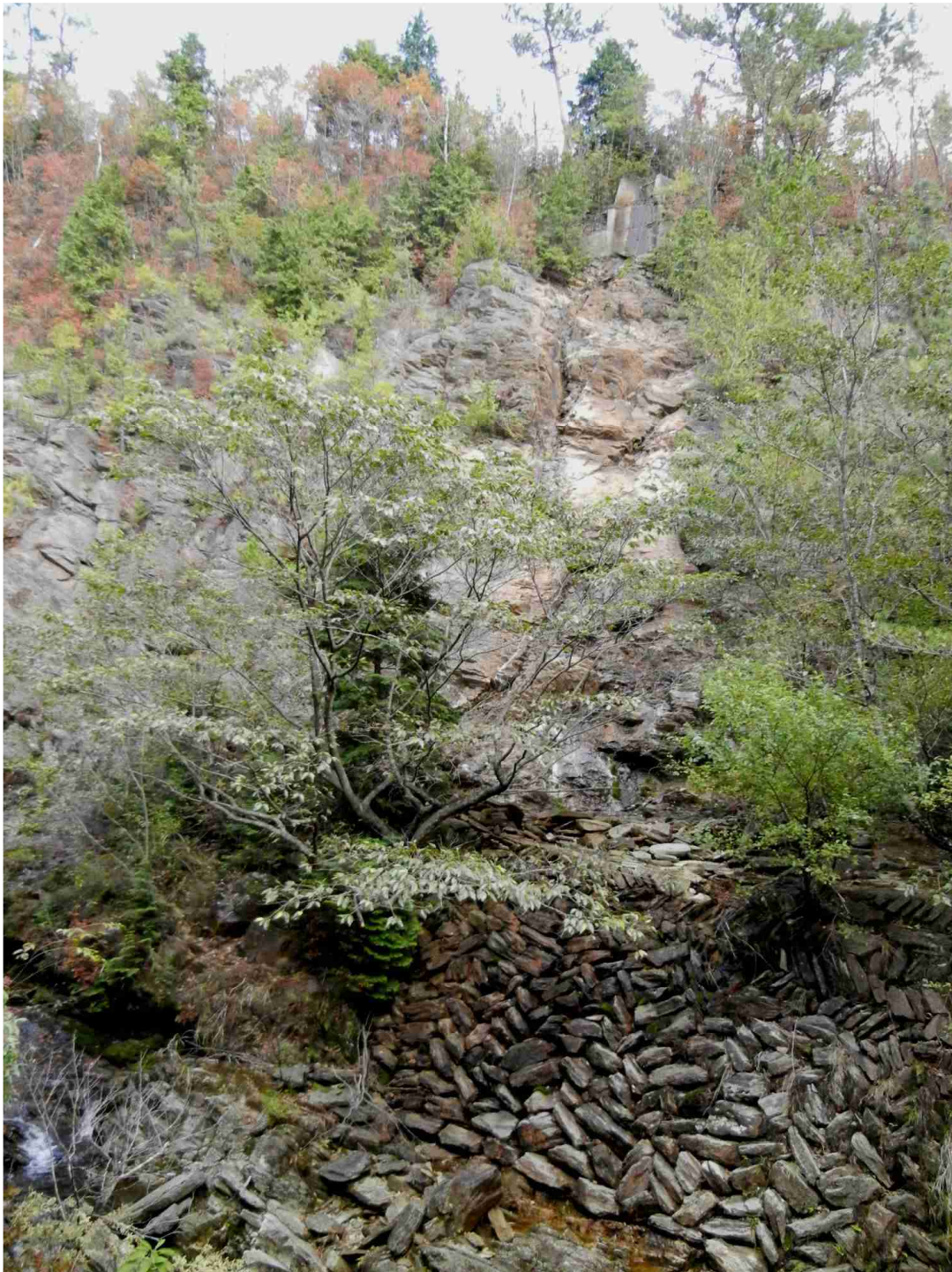
高橋・高橋製錬所



小足谷集落







## 木方吹所と裏門

明治30年頃の木方吹所（製錬所）を南側から見上げた風景である。中央左寄りに土橋があり、その右下で谷が分かれている。右が足谷川で左の方を奥谷谷という。足谷川に面して右の山側に建ち並ぶのは木方吹所である。この時点では高橋製錬所よりもこちらの方が産出量は豊っていた。

右上から斜めに箱橋が掛り、その左で白煙が上がっているところは明治13年から生産が始った最初の湿式製錬所（沈澱銅）の施設であろう。

左の大きな両面石積の向こうは木炭倉庫で、その真上にも石積が天に突き出している。当時の和式製錬では1トンの銅を作るのに4トンもの木炭を使っていた。木炭は食糧に次ぐ貴重な物で、従って製錬や木炭倉庫の建ち並ぶ鉱山の心臓部の入口は石川や堰で厳重に囲まれていた。因みにこの辺りを裏門と呼んでいた。

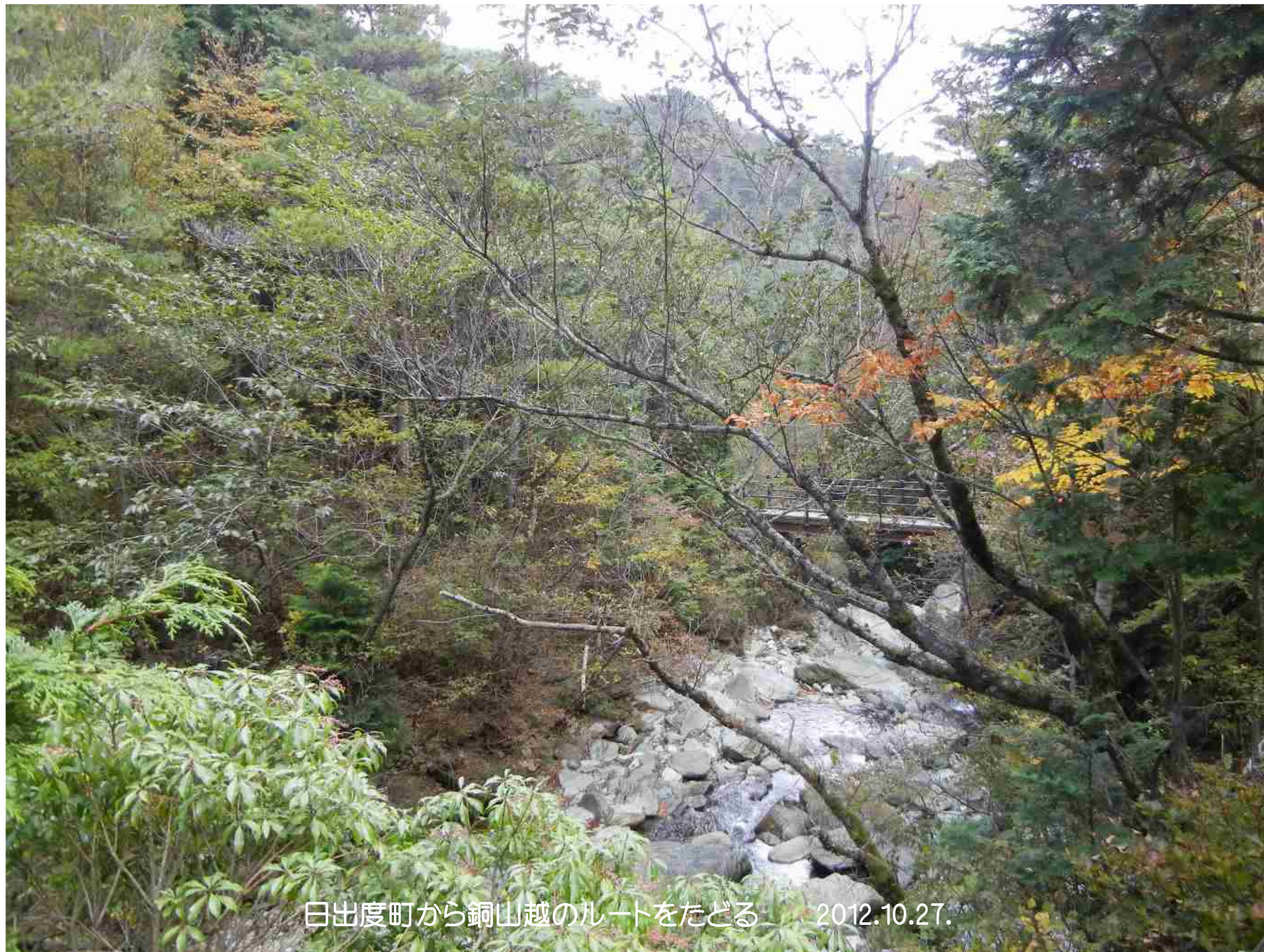


パイプ橋周辺 谷の対岸寛政谷経由で銅山越へ行く谷筋と山腹をそのまま行く日出度町経由の谷筋分岐点  
対岸に木方吹所跡 2012.10.27.









日出度町から銅山越のルートをたどる 2012.10.27.













対岸 木方集落跡 今は樹木にうずまっている





枝谷を渡って 日出度町 大山神社跡へ 2012.10.27.



## 重任局と大山積神社

元禄7年(1694)の大火の後、歡喜間符の隣にあった勘場がここに移され、明治12年に重任局と改称された。明治25年の火災で焼失するまでは銅山の指令所として重要な位置を占めていた。火災のあと重任局は木方に移ったが、その跡は元禄4年より銅山の鎮護の神として奉られていた大山積神社が、対岸の延喜の端から遷座した。

また、モミの大木の向う側には別子山村役場があって村の行政もここで執行されていた。

左の広場には住友新座敷と言う来客接待所があったが、大山積神社の遷座と同時に、その跡が相撲場となり、5月の山神祭には大いに賑わった。

下方一帯は目出度町で商店の他に料亭や郵便局・小学校なども軒を並べ、対岸の一段高い所には住友病院もあった。













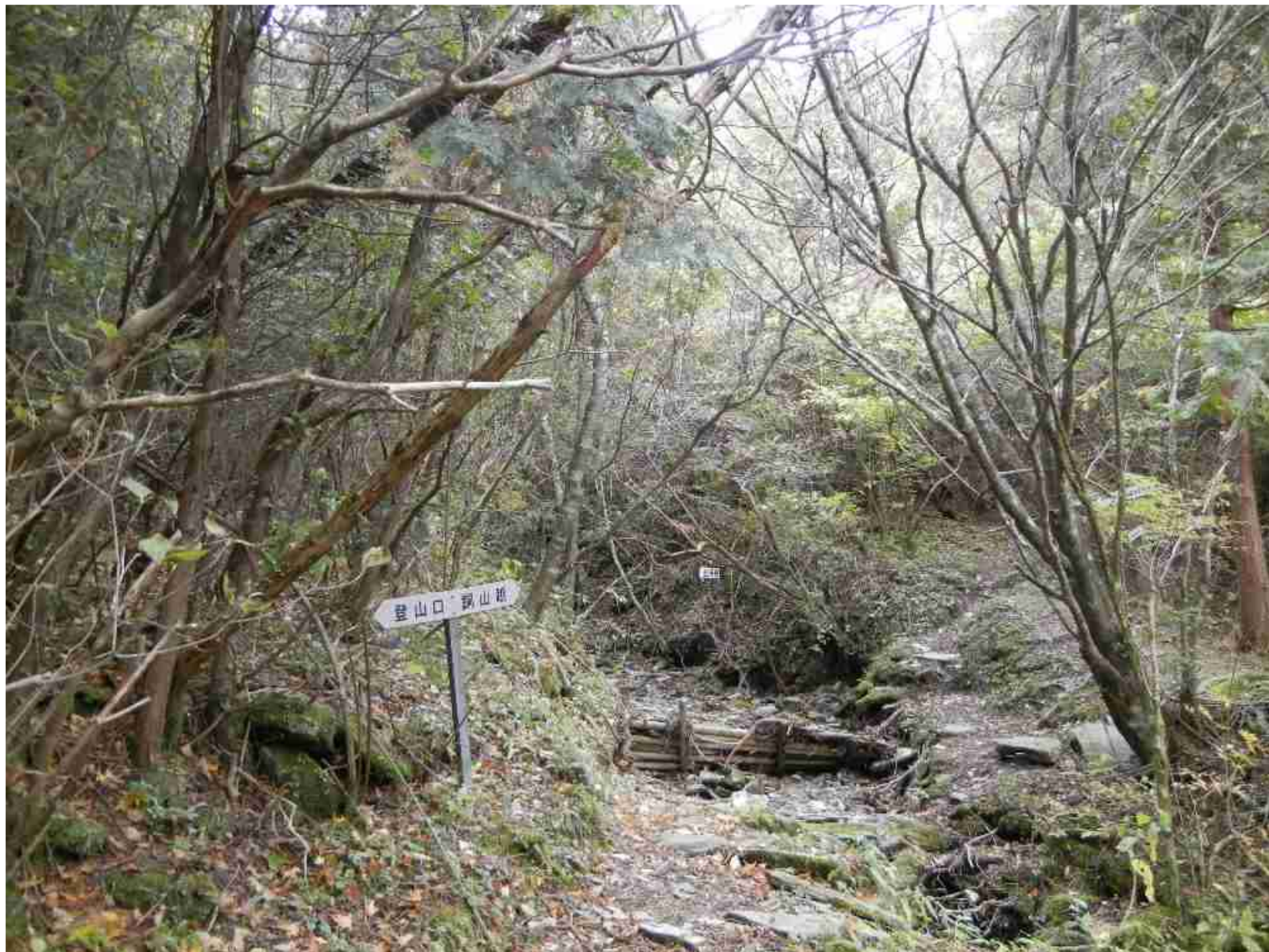




柴久橋跡





















### 牛馬道

牛車道は目出度町から銅山越を経て新居浜へ至る牛馬道。

開削は1876年7月頃に着手し、一時、開削を中止。1878年2月、開削を再開させ、1880年11月に、銅山峰から石ヶ山丈を経て立川中宿までの牛車道が完成しました。

**銅山越への広い牛馬道にでた** 2012.10.27.













登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.





登ってきた銅山越への牛馬道を振り返る 2012.10.27.





牛馬道 右手上方に笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標が見えてきた









登って来た小足谷川の最上部 随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.

遠く南東方向 別子ダムの向こう 冠山・平家平の山並が見えている





随分下に登って来た牛馬道が見える 2012.10.27.





笹ヶ峰と銅山越の分岐の道標





牛馬道 銅山越 尾根筋のすぐ下のトラバース道 2012.10.27.





銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の墓所 蘭塔婆山の遺構が見える  
かつて この谷筋には別子銅山の諸施設・街が建ち並んでいた





銅山越直下より 蘭塔婆山の遺構が見える





**銅山越 峠へ南側から** 2012.10.7.







銅山越より 日浦から登りつめた小足谷の谷筋 2012.10.27.

この紅葉した樹木の中に旧別子銅山跡が埋まっている





銅山越 峠へ南側から 2012.10.7.









西赤石山へ  
東赤石山へ

西山へ  
東山へ

西赤石山を経て東赤石山へ  
約4時間

西山を経て笹ヶ峰へ  
約5時間





越山銅



## 銅山越 (標高1,294m)

開坑以来の悲願が叶って元禄15年(1702)別子銅山の粗銅は、ここを越えて新居浜の大江の浜まで2日で運びだせる様になった。それまでは村の東はずれの小箱峠を越えて宇摩郡天満の浦まで2日3日もかかっていた。以来、明治19年に第一通洞が開通するまでの184年間、粗銅と共に山内に住む数千人の食糧も中持人夫に背負われてこの峠を往来した。

しかし、海拔1,300mもある銅山峰は、しばしば厳しい表情を見せ、風雪のため行き倒れた者もあった。峰の地蔵さんは三界万霊、その無縁仏を祠ったものである。その地蔵さんの縁日は旧暦8月24日であった。明治の頃には道筋には幟がはためき、横の舟窪には土俵があって子供相撲に歓声が湧いたという。



新居浜側

別子山村側



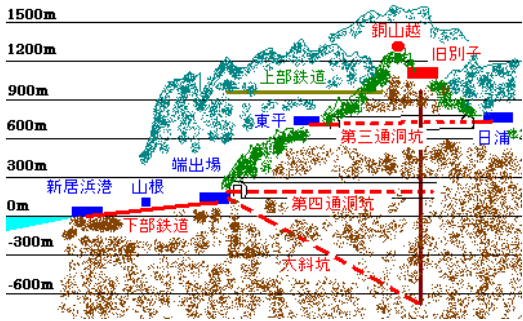
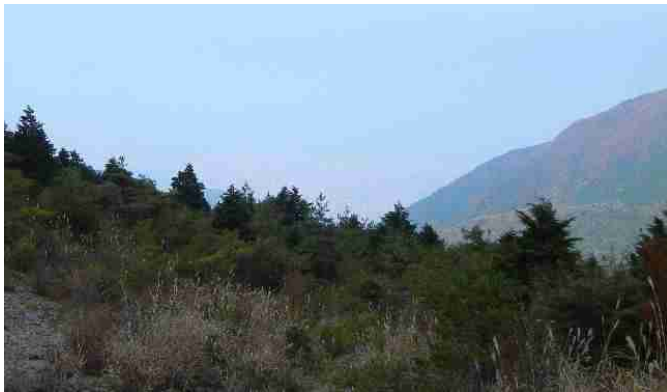


越山銅





# 銅山越えからの眺望 2012.10.27.







西側からの銅山越・西赤石山の尾根筋







銅山越から眺めた真っ赤に色づいた西赤石の山並 2012.10.27.





銅山越から眺めた新居浜の街と真っ赤に色づいた西赤石山 2012.10.27.





## 銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平坑から山腹を下る道がある。  
今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。  
短距離ですが、よくこの道を銅を担いで降りたものだ。でも 谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。



2012/10/28

新居浜

山根

銅山越→東平→鹿森ダム

馬の背・泉屋道を下る

端出場

鹿森ダム

東平・銅山越 通過志登山口

東平歴史資料館

東平駐車場

第三通洞

新太平坑口

ヒュッテ

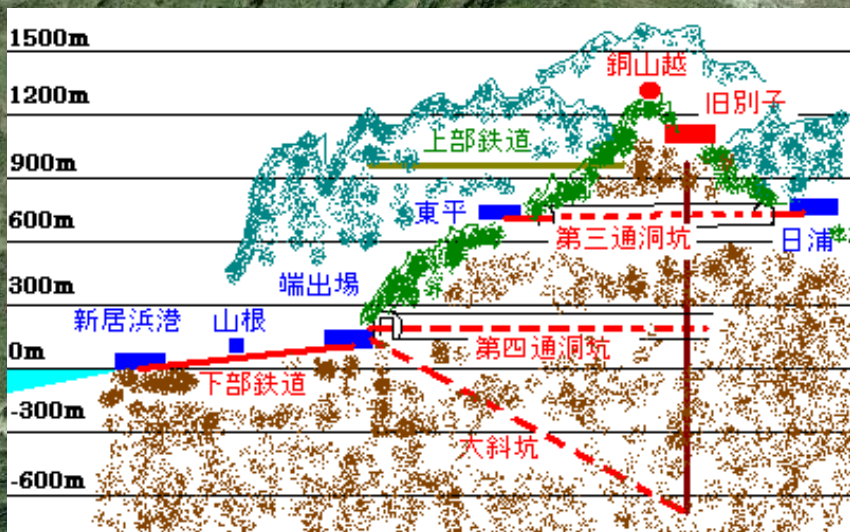
笹ヶ峰分岐

銅山越

大山積神社跡

裏門

ダイヤモンド水



日浦銅山越登山口

2 Cnes/Spot Image  
Image © 2012 DigitalGlobe

Google earth



銅山越→東平→鹿森ダム

馬の背・泉屋道を下る







## 銅山越から東平へ馬の背を下る 2012.10.27.

銅山越から東平へ下るには1.東側の牛車道 2.まっすぐ峠を越えて角石原から馬の背を降る泉屋道 3. 角石原から西側の太平坑から山腹を下る道がある。  
今回は馬の背をまっすぐ降る泉屋道をとりましたが、ほかの道と違って急な降り道が馬の背を降ってゆく。  
短距離ですが、よくこの道を銅を担いで降りたものだ。  
でも 谷に取り囲まれた急斜面の山の山腹に忽然とあらわれた「東平」の姿が遠望され、とても印象的な姿でした。



# 別子銅山 銅の輸送路 銅の道

泉屋道(仲持道)・牛車道・鉄道・索道

<http://h2o.sakura.ne.jp/bessi/Qbessi/00data/miti/miti.html> & <http://www2.dokidoki.ne.jp/tomura/cutrans.htm> より



- 上部鉄道 角石原-石ヶ山丈 明治44年(1911) 10月7日 廃止
- 下部鉄道 惣開-一端出場 昭和52年(1977) 2月1日 廃止

## (泉屋道)一次泉屋道

別子銅山が開坑されたのは元禄四年のことで、それより50年も前の寛永年間より銅山峯の北側の西条藩に属する立川銅山が盛んに採鉱されていた。

別子銅山は幕領に属しており、両銅山の間柄は必ずしも円満ではなく、最短距離の銅山越で運べなかったため、別子の銅は立川銅山域を通らず、宇摩郡の地域内から赤石連山の東側の小箱峠越で運ばれていた。

## (新居浜側へ直接出る道 二次泉屋道 & 三次泉屋道)

住友の長年にわたる幕府への嘆願と立川銅山の経営不振により 立川銅山が住友の請負銅山となり、やっと元禄年間に西赤石山越そして銅山越の道が開かれた

**二次泉屋道** 元禄15年(1702)～寛延2年(1749)  
足谷・東延-西赤石南側-雲ヶ原-西赤石と上兜山の間  
-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

**三次仲持道** 寛延2(1749)年～明治13年(1880)  
足谷-銅山越-角石原-馬の背-御番所-東平-端出場  
-立川中宿=新居浜口屋

## (牛車道)

**牛車道** 明治13年(1880)～明治26年(1893)  
足谷山-銅山越-角石原-石ヶ山丈-立川中宿=新居浜口屋

## (第一通洞→上部鉄道～索道～下部鉄道)

◆ 明治26年(1893)～明治38年(1905)  
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開精錬所  
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道

◆ 明治38年(1905)～明治44年(1911)  
足谷山-第一通洞-角石原-石ヶ山丈-打除=惣開=四坂島  
馬車 牛引鉱車 上部鉄道 索道 下部鉄道 海上輸送

明治44年 第三通洞が日浦-東平全通し、鉄道と索道による新輸送へ)





銅山越から馬の背へまっすぐ北へ下る泉屋道 2012.10.27.









ここにもかつて集落があったのだろう 傍らに墓地がありました





紅葉した林の中の下り道 銅山峰ヒュッテの標識を見つけ、角石原から馬の背へ





**銅山越の北側 角石原 銅山峰ヒュッテ 2012.10.27.**

森の中を降って ちょっと降り過ぎかと気になりだした頃 林の向こうに明るく開けた広場があり、小さな小屋が見える。銅山峰の尾根をくり貫いた第一通洞が通じると、運び出された鉱石がここから上部鉄道で石ヶ山丈へとおろされた。

ヒュッテのすぐそばに停車場跡があり、このままヒュッテの前を通り抜けると西赤石山・銅山越からの道と合流して東平への牛車道。

また、もと来た道を引き返すと太平坑から東平へのトラバース道と馬の背を降って東平へ行く道。角石原は銅山越北側 銅山交通の結節点。





銅山越の北側 角石原 銅山峰ヒュッテ 2012.10.27.



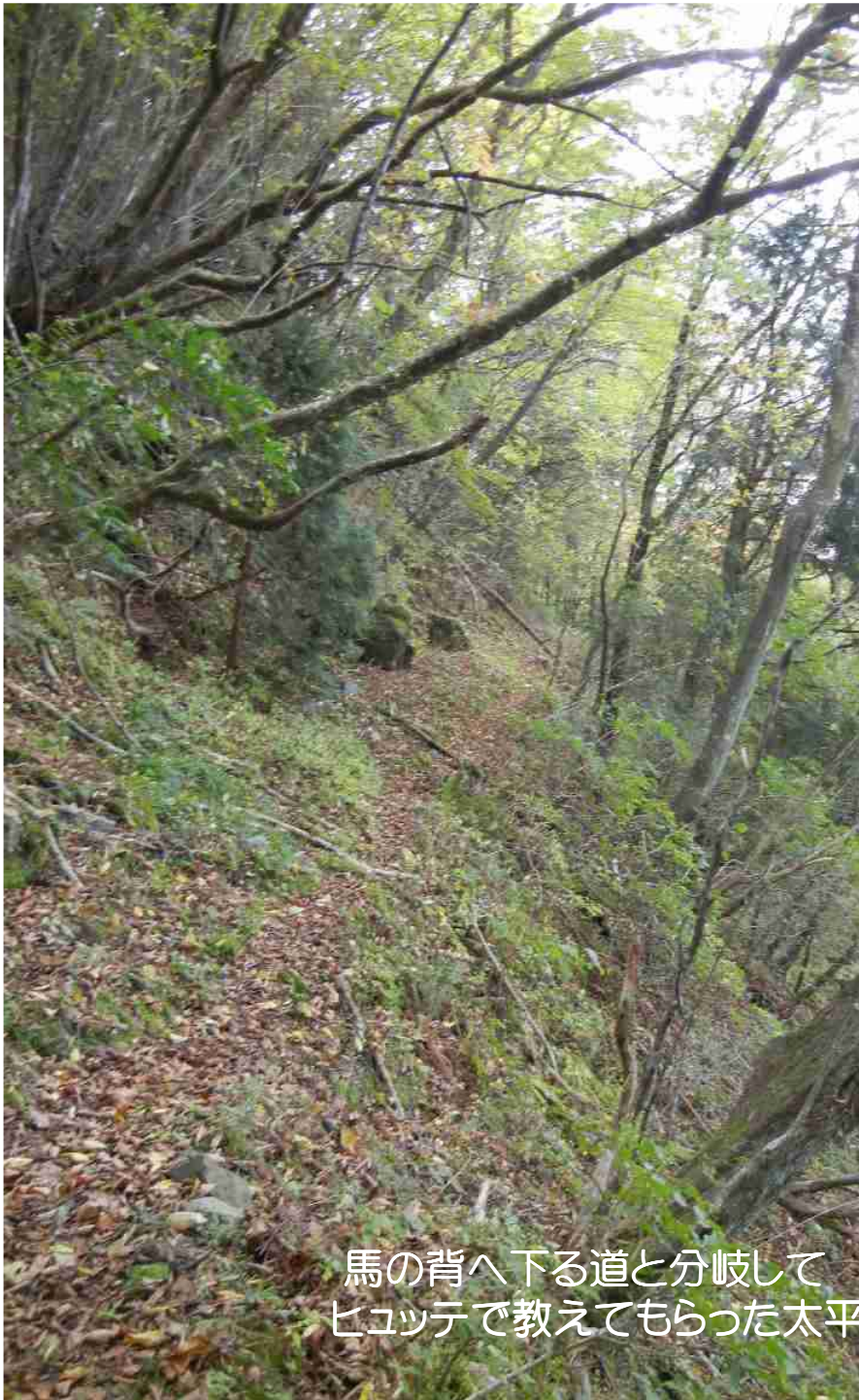


銅山越の北側 角石原 上部鉄道停車場跡  
銅山峰ヒュッテのすぐ横の広場 2012.10.27.









馬の背へ下る道と分岐して そのまま山腹を西へ 2012.7.27.  
ヒュッテで教えてもらった太平坑・新太平坑へのトラバース道に行く





太平坑 坑口跡 2012.10.27.





ブッシュの中の踏み跡を芯太平坑へ

2012.10.27.

このブッシュの中で 向こうから来る人に出会いました  
新太平坑の坑口判りにくいとお親切におしえてもらいました  
おたがい同好の志 ものづきやなあ…と笑って分れました









谷を渡り口 目印に棒を置いといたと教えてもらった新太平坑への道

















**新太平坑 坑口** 2012.10.27.

ここからさらに奥へ 東平への山腹を巻く道が伸びていましたが、様子  
がわからず。また 泉屋道・馬の背を下りたくて 分岐まで戻りました





馬の背を降る泉屋道との分岐まで戻って そこから馬の背を降る 2012.10.27.









森の中 きつい勾配の馬の背を降る途中 右手に山の中に 忽然と視界の仲に東平があらわれました





東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.  
周田と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかかっていたのか……

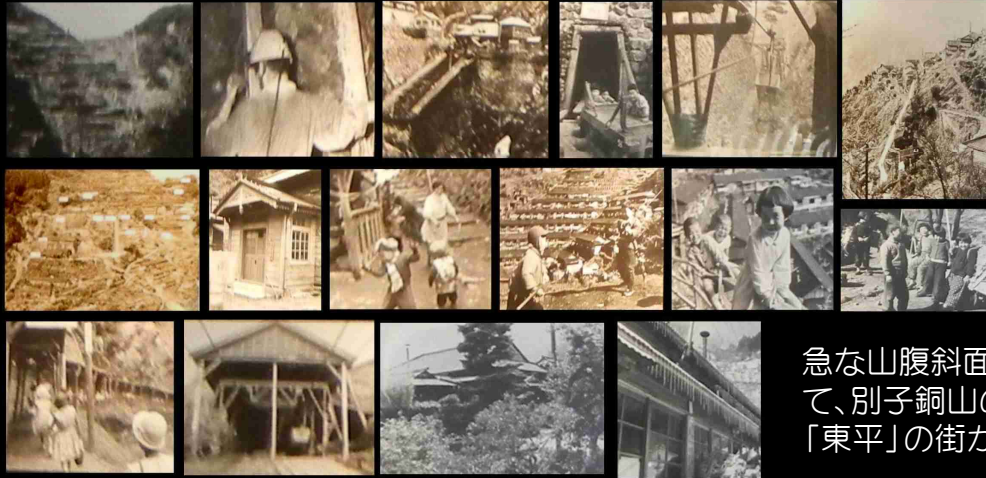




東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平

2012.10.27.





急な山腹斜面の上 周囲を山に囲まれて、別子銅山の新居浜側の拠点として「東平」の街が建設された

周囲と全く隔絶した山の中 「東平」の街があった 今 東洋のマチュピチュと呼ばれる













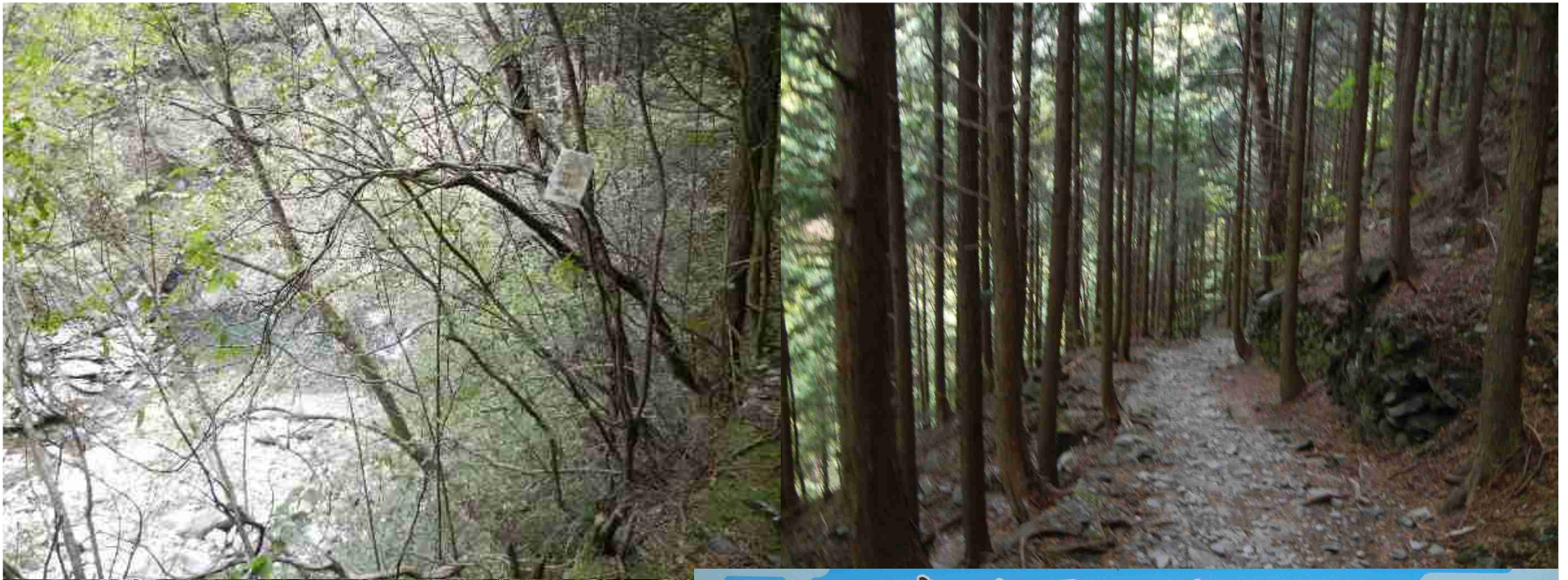
西側の谷筋の道と出会うと馬の背の急な道も終わり、谷に沿う平坦な石畳道 東平らも近い



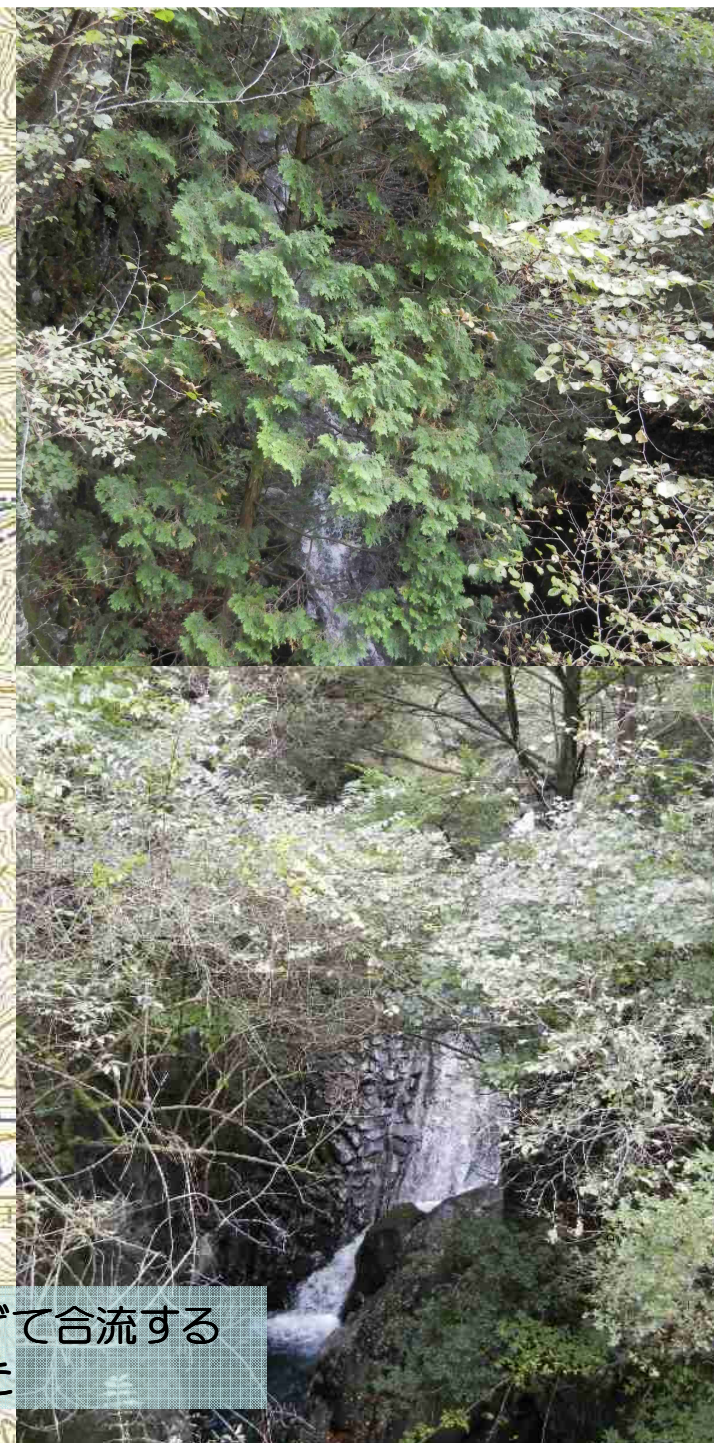


馬の背の急な道も終わり、「東平」へ 谷に沿う平坦な石畳道 2012.7.27.









狭い谷を急な谷川 唐谷川・柳谷川が水しぶきを上げて合流する  
このすぐ横に第三通洞の入口がありました







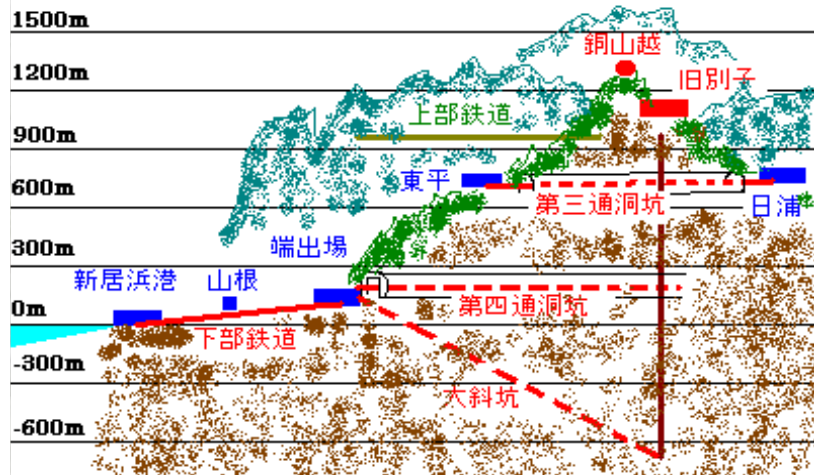


第三通洞入口 2012.10.27.



### 第三通洞 (標高744m)

第三通洞は東延斜坑の下底部にあった三角という別子鉱床の富鉱部を狙って明治27年（1894）に開削に着手した多目的坑道である。同35年に完成したことにより、坑内水の排出と通気問題が一挙に解決し、出鉱量も飛躍的に増加していった。更に、明治44年に別子山側に日浦通洞が貫けたことにより、東平と別子山日浦が全長3,990mのトンネルで結ばれ、別子鉱山の北と南を結ぶ動脈となった。更に鉱山では籠電車という鳥籠の様な人車を連結して一般にも開放したので、利用者が多くて特別に人車を増結することもあった。昭和48年、その籠電車も別子鉱山の終掘と同時に廃止された。



第三通洞入口 2012.10.27.





### 第三通洞 (標高744m)

第三通洞は東延斜坑の下底部にあった三角という別子鉱床の富鉱部を狙って明治27年（1894）に開削に着手した多目的坑道である。同35年に完成したことにより、坑内水の排出と通気問題が一举に解決し、出鉱量も飛躍的に増加していった。更に、明治44年に別子山側に日浦通洞が貫けたことにより、東平と別子山日浦が全長3,990mのトンネルで結ばれ、別子鉱山の北と南を結ぶ動脈となった。更に鉱山では籠電車という鳥籠の様な人車を連結して一般にも開放したので、利用者が多くて特別に人車を増結することもあった。昭和48年、その籠電車も別子鉱山の終掘と同時に廃止された。

### 第三通銅 明治35年完成

明治44年別子山側に日浦通洞がぬけ、東平と日浦がトンネルで結ばれ、別子鉱山の大動脈となった。

また、かご電車と呼ばれる鳥かご電車を連結して一般にも開放。昭和48年閉山廃止まで多くの人をも運び続けた。





### 第三通洞のかご電車停車場

第三通洞のすぐ横が広場になっていて、川はトンネルで広場下を抜け、その北側山際の斜面上に停車場がありました。また、反対の南側の山際に火薬庫がありました





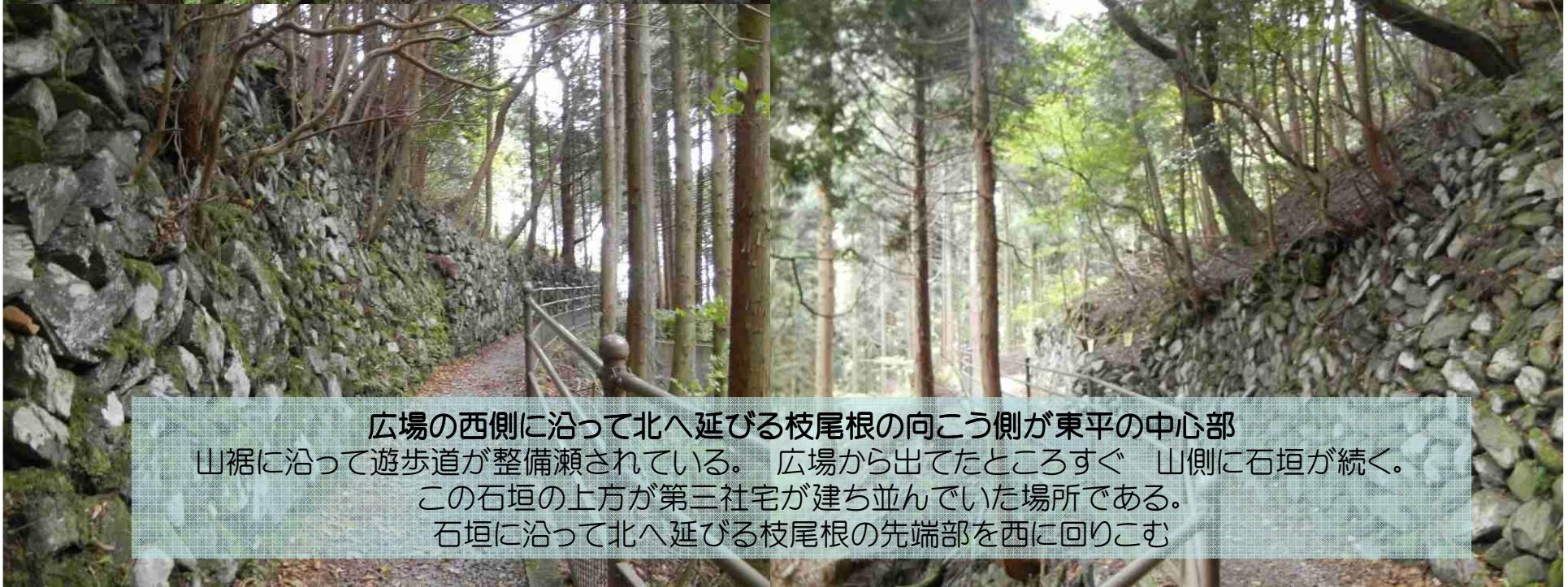
広場の南側から北側を眺めると坂の上に駐車場が見える





火藥庫





広場の西側に沿って北へ延びる枝尾根の向こう側が東平の中心部  
山裾に沿って遊歩道が整備されている。広場から出てたところすぐ 山側に石垣が続く。  
この石垣の上方が第三社宅が建ち並んでいた場所である。  
石垣に沿って北へ延びる枝尾根の先端部を西に回りこむ









第三社宅の石垣を過ぎて  
右側の尾根筋の先端を回りこむ坂道を降りて行く  
いよいよ東平の中心部である 2012.10.27.







**枝尾根の先端部にある駐車場に数多くの車が止まっている**





東平からながめる真っ赤な西赤石山の稜線 2012.10.27.





枝尾根の先端部 トンネルに銅山の運送に使われた電車が展示されていました

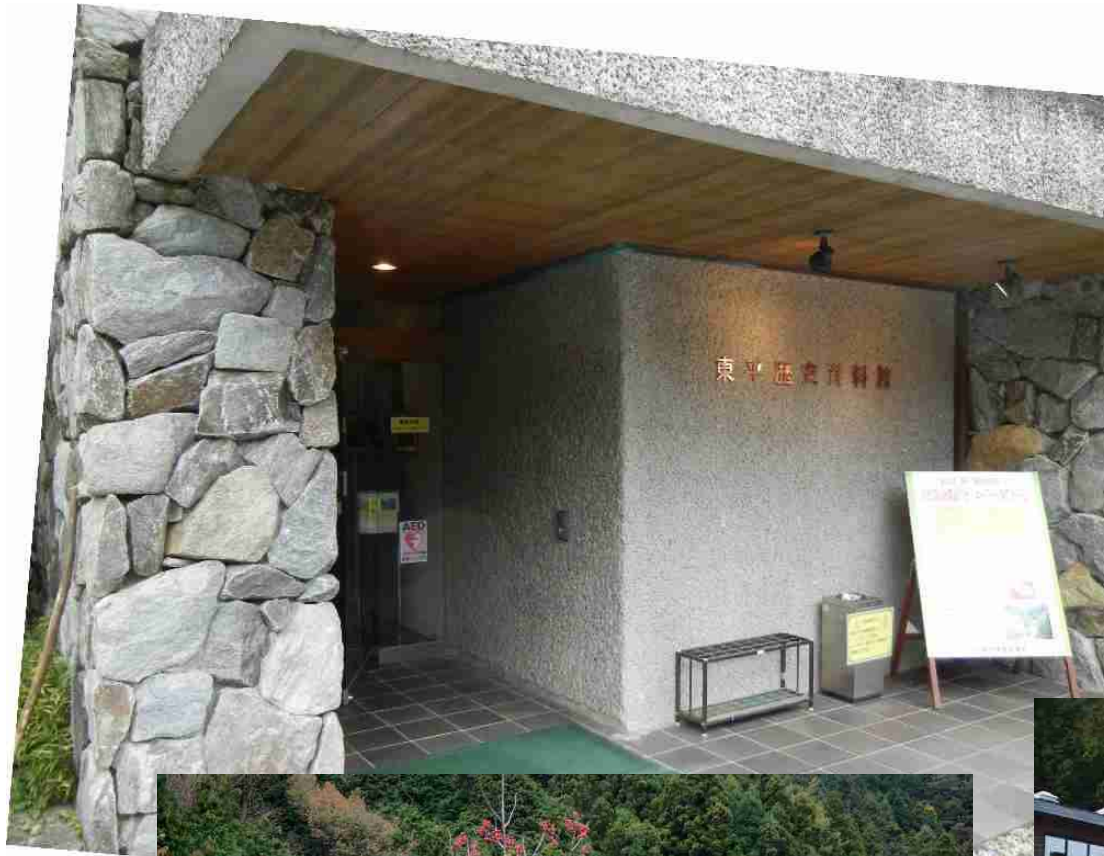




トンネルの中に展示されていた  
かご電車

このトンネルの向こうは東平歴史記念館など東平の中心部





東平歴史記念館 インターネットより写真採取





東平の中心部 インターネットから採取

東平駐車場 新居浜からここまでドライブウェイが繋がっている  
ただし、鹿森ダムの南 河又で 県道47号からこの東平へ入る道  
は狭く車の行き違いの問題など交通制限されている(私道???)









広場西側マイン工房から西赤石山・銅山越の稜線を眺める  
この広場の崖下に貯鉱庫やインクラインなど別子銅山の産業遺産が残っている



東平歴史博物館横から西側駐車場



マイン工房





駐車場の北西 マイン工房から銅山越の稜線を眺める  
2012.7.27.



## インクライン跡

生活用品や資材を引き揚げたり  
降ろしたりするためインクライン  
(傾斜面にレールを敷いてトロッキ  
を走らせるケーブルカーの一種)を  
建設しました。  
このインクラインが、220段の  
長大な階段に生まれ変わりました











東第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27.

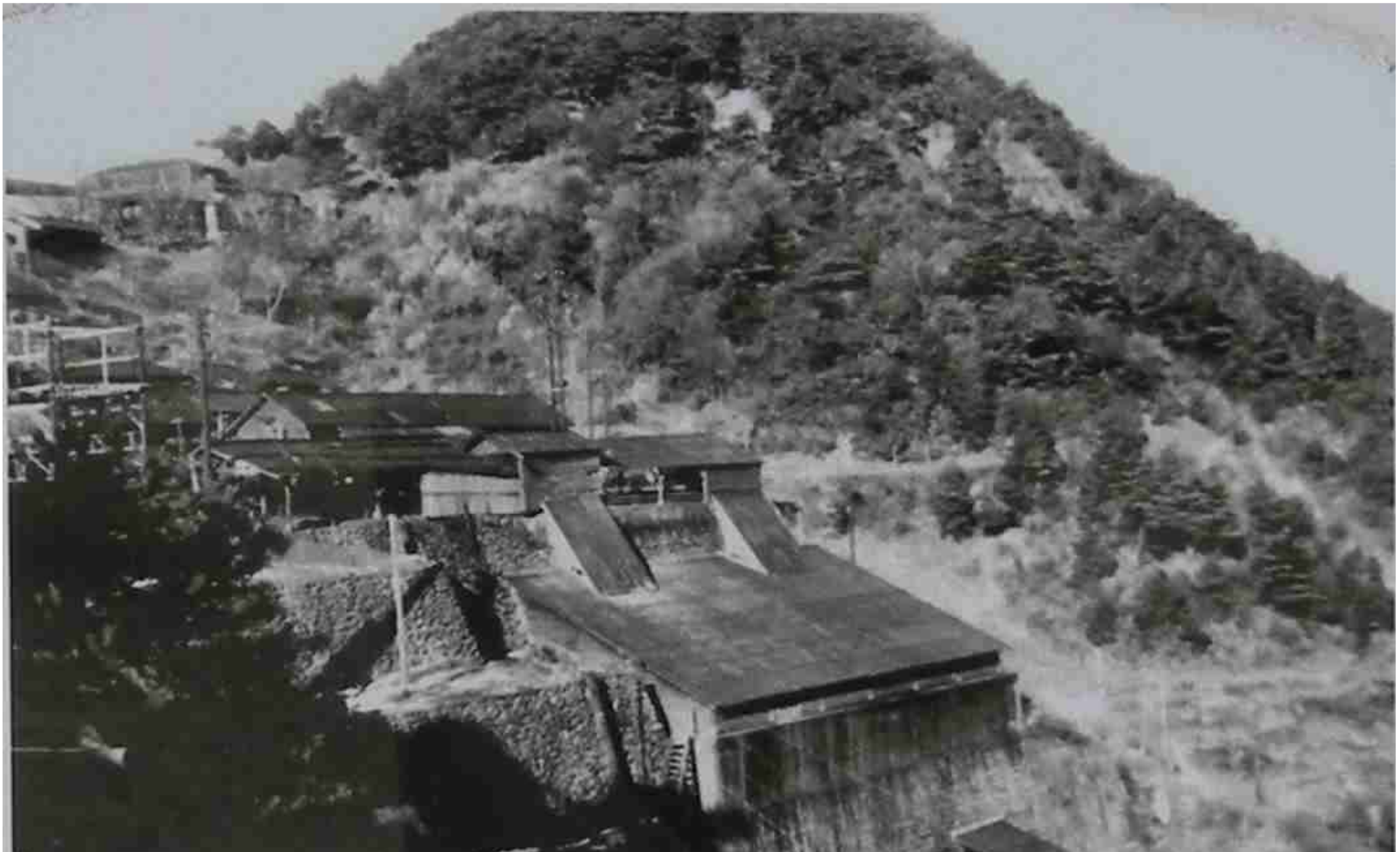
この上方に第三通洞により運ばれた鉱石貯蔵庫がある





第三通洞で運ばれた鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡 2012.10.27





昭和30年頃の貯鉱庫（別子銅山記念館蔵）

## 東平貯鉱庫跡

明治35年（1902）に第三通洞が貫通し、明治38年（1905）に東平の中央に新選鉱場が、東平～黒石駅間に索道が、新選鉱場から第三通洞を経て東延斜坑底に連絡する電気鉄道がそれぞれ完成した。大正5年（1916）には、採鉱本部が東延から東平（第三地区）に移転して、東平が採鉱拠点となる。

第三通洞から搬出された鉱石は、大マンブ、福井橋、小マンブを通過して終点の新選鉱場に運ばれた。鉱石と岩石とに選別された鉱石は貯鉱庫に貯められ、順次索道で黒石駅へ下ろされた。後には距離を短縮して黒石駅から端出場へと変更して下ろされ、四阪島製錬所に運ばれた。





第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上)から端出場への索道停車場跡(下)を眺める 2012.10.27.





東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡

2012.10.27.





第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫 東平貯鉱庫跡(上・下)から端出場への索道停車場跡(中)を眺める 2012.10.27.





東平貯鉱庫跡 第三通洞で運ばれた鉱石の貯蔵庫跡(上)と鉱石を端出場へ降ろす索道停車場跡(下) 2012.10.27.







貯鉱庫・索道駐車場の崖の下には採掘集落が復元されていました





東平より銅山越の山並 峠は右手の山で隠れている 2012.10.27.



## 東平より銅山越の山並


峠は右手の山で覆れている 2012.10.27.

かつて 別子銅山では 銅山越を挟んで 北の日浦と南の東平とが通洞で結ばれ、トロッコ軌道が開通していたといいますが、銅山越をすることなく、別子山村からは、このトロッコ電車を使って、新居浜へ出かけた時代があったという。

「銅山越の登山も東平から銅山越して日浦に下り、帰りはトロッコ電車で東平に抜けたものだ」と日浦の集落で聞きました。

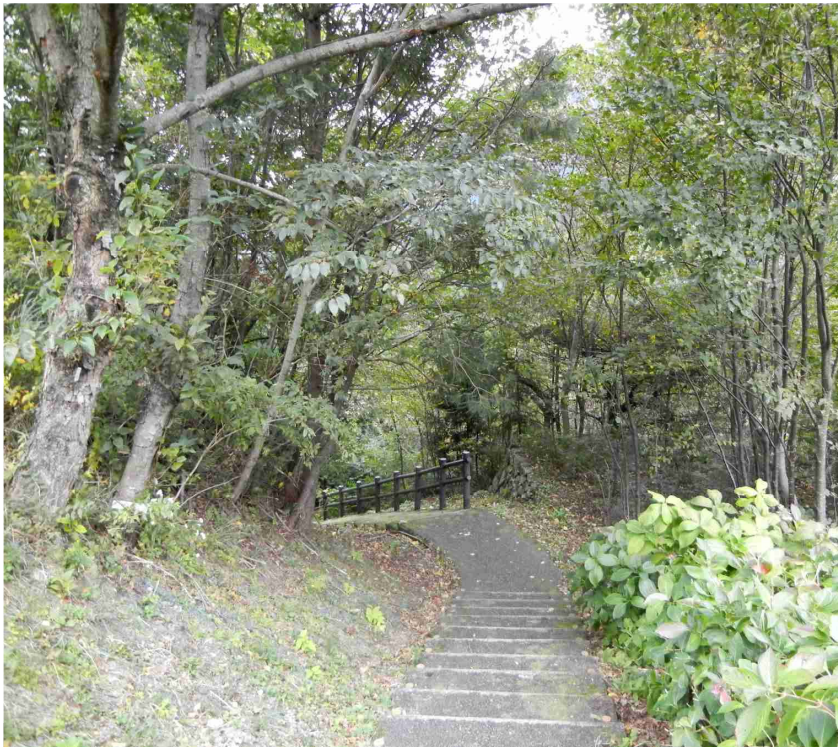






朝 新居浜駅で迎えに来てもらう約束をしていたのですが、またまたソフトバンクの携帯が繋がらない。何度もトライするがだめ。  
マイントピア別子のマイクロバスは団体専用で乗せられぬという。あきらめて谷沿いの旧道を約1.5時間ダムサイトの県道まで歩く。

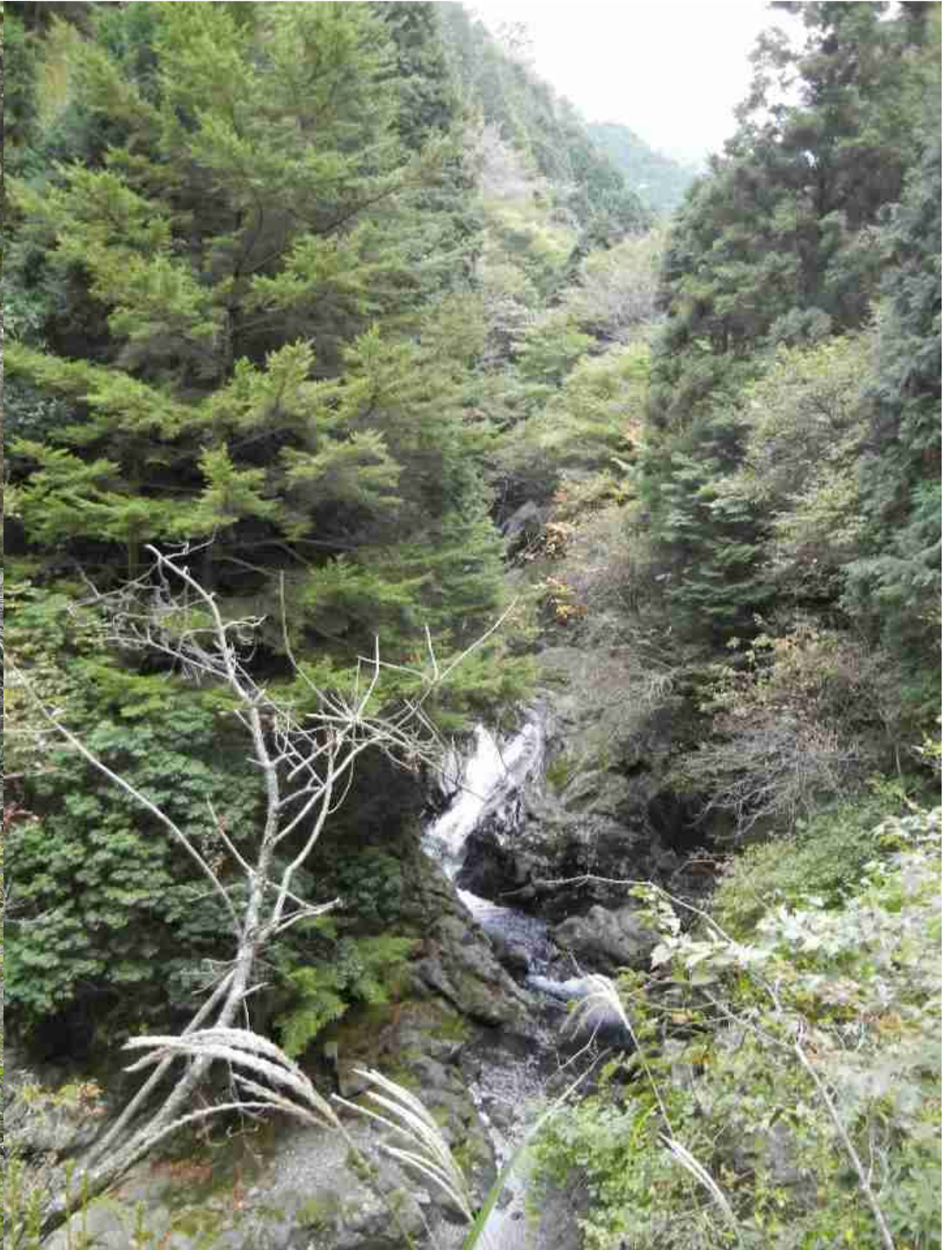




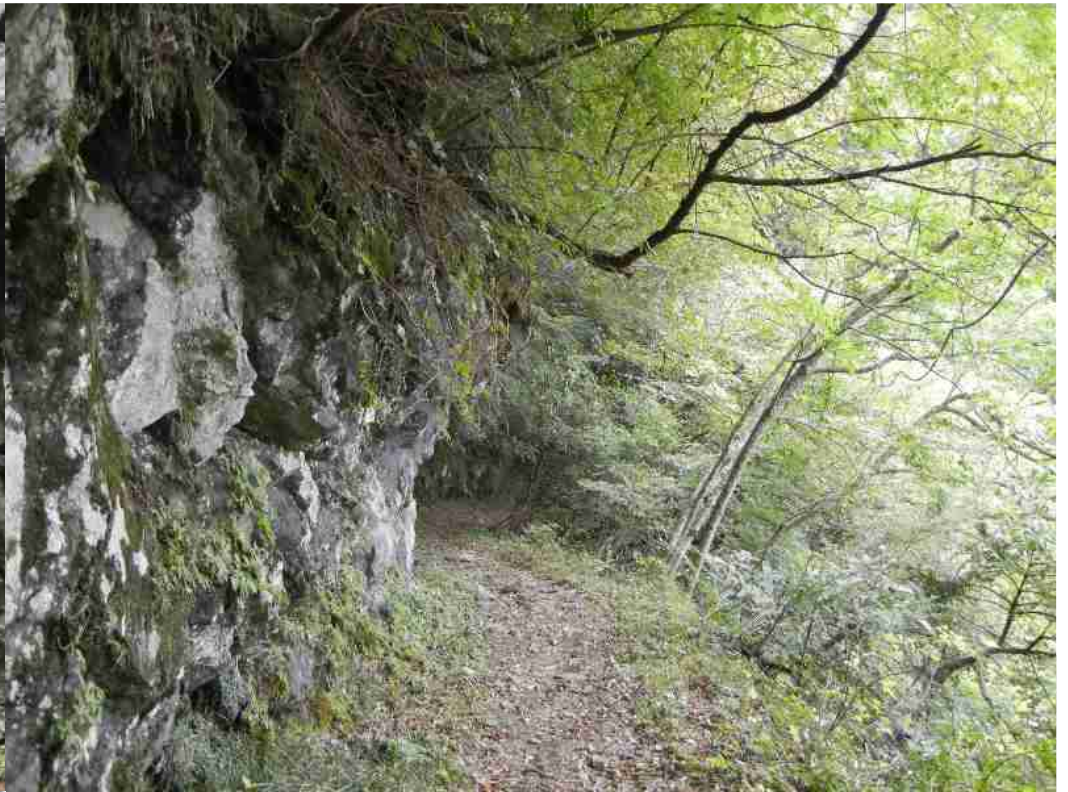
東平から鹿森ダムへの旧道

谷の山腹のくぼ地に病院・娯楽場跡



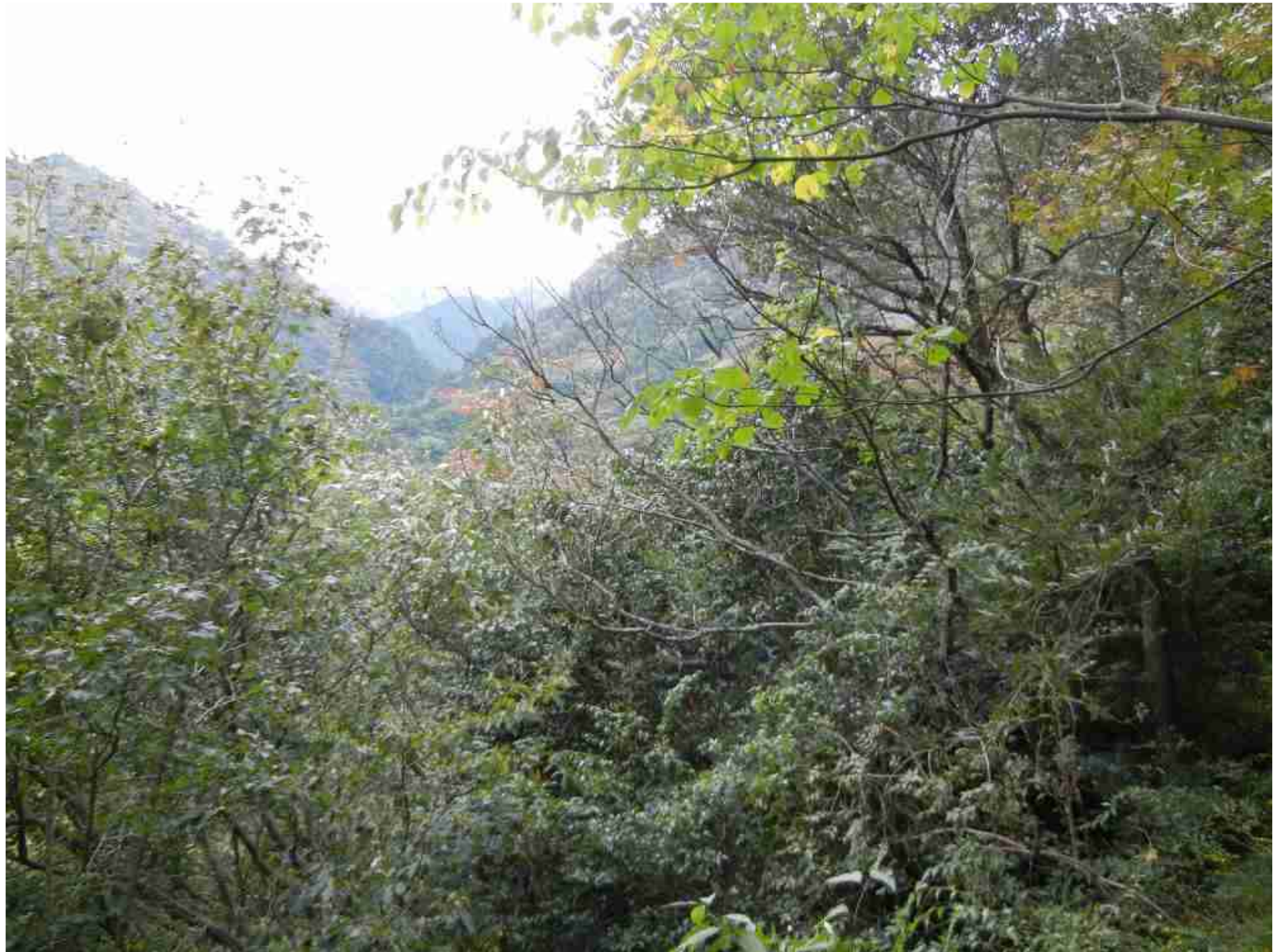






崖際を延々と続くきつい降り道 旧道とはいえ かつての東平と新居浜をつなぐ生活道路であった













木々の間からダムの湖面が見え出すとまもなく県道にでる やれやれである





東平から1.5時間弱で新居浜側 銅山越 遠登志登山口に下山

朝10時 別子山村側登山口日浦を出発して午後4時15分新居浜側遠登志登山口に下山

たっぷり1日がかりの銅山越でした





朝 地域バスで日浦へ向かった県道 2012.10.27.  
連続するトンネルで別子山を越えて別子山村へと伸びている





鹿森ダム直下のループ橋  
青龍橋 2012.10.27.



鹿森ダム直下のすぐ下は  
傾斜が急なため、  
道はループ橋で下ってゆく











谷の崖を登る野猿



やっと携帯が通じて タクシーに迎えに来てもらえる  
待つ間 ふっと崖を見ると渡りのサルが崖をよじ登っていました  
15分ほど待て タクシーが現われ、新居浜駅へ やれやれです





新居浜駅に着いた時はもう夕暮れ  
駅の向こうに銅山越の山々がシルエットで眺められました  
念願の銅山越 満足感一杯の一日でした 2012.10.27.









銅山越直下より 銅山越の小足谷の谷筋 すぐ下に 開坑以来の墓所 蘭塔婆山の遺構が見える  
かつて この谷筋には別子銅山の諸施設・街が建ち並んでいた





東洋のマチュピチュと呼ばれる旧別子銅山 東平 2012.10.27.  
周囲と全く隔絶した山の中 どうして下と繋がっていたのかかっていたのか……



旧別子銅山の産業遺産が眠る別子山 この別子山 山越の銅の道 「銅山越」

新居浜

紅葉した別子山 念願の銅山越・銅の道を歩きました

2012.10.27.

おわり

山根

端出場

東平

立川

旧別子銅山城

銅山越

別子

旧別子山村

【 参考 】 Country Walk・風来坊

四国北岸を東西に貫く大断層「中央構造線」Walk 赤石山系 別子銅山の山郷 別子山村 2005年11月

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/walk/4walk10.pdf>

Image © 2012 GooEye

Google earth